



エンブレイシング・ザ・ワールド

embracing the world®



シュリー・マター・アムリターナンダマイ・デーヴィの

慈善活動の取り組み

マター・アムリタナンダマイ・マート(MAM)



© 2003 - 2012 Mata Amritanandamayi Mission Trust, Amritapuri, Kollam, 690525, India.

「慈善活動の取り組み」第11版2012年1月発行

本冊子の全部または一部を、発行者の許可無く、無断で複写、複製、転載することは、法律で定められた場合を除き、著作者および発行者の権利侵害になります。



embracing the world[®]

エンブレッシング・ザ・ワールドは、
マター・アムリターナンドマイー・マート※
から生まれた、
世界的な慈善活動のネットワークです。

(※国連経済社会理事会の特別諮問資格を有するNGO)

www.embracingtheworld.org



SINCE
N
CO

私の宗教は 愛

アンマ(シュリー・マター・アムリター・ナンドマイー・デーヴィ)



アンマ(シュリー・マーター・アムリターナンドマイー・デーヴィ)| 06



災害救援 | 15



女性の自立支援 | 34



住宅建設 | 38



地域社会への支援 | 45



子供たちのケアホーム | 51



公衆衛生 | 56



すべての人に教育を | 59



よりよい世界のための研究 | 66



保健医療 | 73



飢えとの戦い | 82



環境保護 | 85



アムリタ各機関 | 88



お問い合わせ | 95



愛と奉仕に捧げる生き方が
可能であることを世界は
知るべきです。アンマ



アンマは1953年、南インドのケーララ州にある海辺の村に生まれました。小さいころから、海辺で何時間も深い瞑想に入るのを好んでいました。彼女はまた神に捧げる歌をつくりました。周囲の人は彼女が心をこめて、神に歌っているのを見かけたものです。ごく幼かったにもかかわらず、彼女の歌は驚くべき深みと叡智を表わしていました。

アンマが9歳のとき、母親が病気になり、アンマは家事と7人いる兄弟の世話のために学校を辞めました。家で飼っていた牛にエサを与えるために近所の家々をまわって野菜くずなどを集めていたとき、彼女の周囲、さらに世界に、ひどい貧困と苦しみがあることを目のあたりにしました。

困っている人びとに出会うと、アンマは自分の家の食べ物や衣服を渡しました。このことで家族から叱責やお仕置を受けても、ひるむことはありませんでした。アンマはまた、いつしか自然に人びとを抱きしめ、彼らの悲しみに慰めを与えました。アンマの愛情深いいたわりから、彼らは彼女を「アンマ（お母さん）」と呼ぶようになったのです。それに応えるように、アンマは彼らを「子供たち」と呼ぶようになりました。



アンマはどんな人に対しても改宗を勧めたことはありません。ただ、自分の信じているものに向かって深く進み、その本質的な原理によって生きてほしいだけです。

アンマの人生

アンマは自分が見た深刻な苦しみに深く心を動かされました。ヒンドウイズムによれば、個人の苦難は本人自身のカルマ——過去になされた行為の結果——によるとされます。アンマはこの考え方を受け入れましたが、しかし、何もしないことの正当化にするのはよしとしませんでした。アンマはカルマの原理について深く考え、今でも彼女が私たちに尋ねる質問を投げかけながら、さらに深い真理に出会いました。「それがもし当人のカルマだとしたら、ではその人の苦しみや痛みを癒すのが私たちのダルマ（義務）ではないか？」

アンマは、この端的で、しかし深い信念——私たちそれぞれには恵まれない人たちに助けの手を差し伸べる義務がある——をもって、すべての存在に奉仕し、慈しみ深くいたわるという彼女の生き方をしっかりとした足取りで前に歩き出したのです。彼女の腕につつまれて救いを得たいすべての存在を、母親がするように抱きしめる、そんな彼女らしいやり方で。

アンマの地元では、14歳の少女が誰かに、特に男性に触れるのは好ましくないことでした。けれども、実の両親からの厳しい扱いに関わらず、アンマは自分の良心に従いました。後になって彼女はこうのように話しました。「この人が男か女かなどというところを私は見ません。私自身の自己と違う、と思える人にあったことは今までにありません。愛の途切れない流れが、私からすべての生きとし生けるものに、流れていきます。これが生まれながらの私のありようなのです。医師の仕事は患者を診ることです。同

じように、私の義務は苦しむ人びとをいたわりなぐさめることです。

それぞれの「エンブレイシング・ザ・ワールド（ETW）」のプロジェクトは、アンマのところで心の重荷をおろし、彼女の肩で泣きたいとやって来る世界各地の貧しい人たちの求めに応じて、立ち上がったものです。25年以上前に、地元の孤児院の経営者たちがアンマに運営資金がないと打ち明けました。この状況では子供たちを路上に出すしかないのです——と。アンマは、アシュラムのホールを建てるための資金を、きちんと孤児たちの面倒をみることにするために使いました。これがきっかけとなり「エンブレイシング・ザ・ワールド（ETW）」は生まれました。

ケーララのアンマの生地は、インドを機軸にしたアンマの霊性と人道活動の機関、マター・アムリターナダマイー・マート（MAM）の本部となりました。そして世界的な規模で活動する「エンブレイシング・ザ・ワールド（ETW）」の本部でもあります。少なくとも3,000人が住むこの場所に、毎日多くの来訪者がインド、海外の各地からやってきます。住民と来訪者はともに、アンマの手本に触発され、恵まれない人びとの人生を変えるために自らを捧げています。

今までに、アンマは3,200万人以上の人びとをその腕に抱きしめ、安らぎを与えてきました。これほど多くの人を支え、しかも大規模な人道活動の組織を立ち上げ、運営する、その力をどこから得ているのかと聞かれ、アンマはこう答えました。「真の愛があれば、すべてが自然と可能になります。」



アンマのもとに来る人に手を差し伸べる力がある限り、
泣く人の肩に手を置く力がある限り、アンマは抱擁を続けます。
やさしくさすり、なぐさめ、涙をぬぐうために。
この体が果てるまで。— これがアンマの願いです。アンマ



アンマの抱擁(ダルシャン)

まさに世界市民と言えるでしょう。アンマのプログラムは世界各地で、無料で開催されます。インド、ヨーロッパ、アメリカ、オーストラリア。さらに日本、スリランカ、シンガポール、マレーシア、カナダ、アフリカ、そして南アメリカ。アンマは講話のなかで、叡智の言葉を贈り、時代に即した問題、個人の課題についてともに提言、助言を与えます。そして今日にいたるまで、その日のプログラムが終わるのは、アンマが会場に訪れた人、すべてを抱き終えたときなのです。

“なぜ人々を抱きしめるのですか？”——BBC(イギリスの放送局)に尋ねられて、アンマは答えました。“それは川になぜ流れるのですか、と聞くようなものです。川とはそういうもので、ただ流れるのです。同じようにこれがアンマのありようです。我が子に愛を表わす母親のように。”



この類を見ない、普遍的な愛の表現。これがアンマの抱擁(ダルシャン)です。一日に20時間、またはそれ以上、休憩などはほとんどはさまずに続けられます。この母親にされているような抱擁を、何時間も何時間も、今日も明日も、そして40年間。これが広がり続ける人道活動の触媒、そしてシンボルとなりました。今はこの活動も、「エンブレイシング・ザ・ワールド(ETW)」「世界を抱きしめる」と呼ばれるようになりました。

アンマは半生を通じて、世界中の人、3,200万人以上を抱きしめてきました。この素朴な、しかし力強い行為が今ではエンブレイシング・ザ・ワールドと呼ばれ成長を続ける人道活動の触媒、そしてシンボルとなっています。

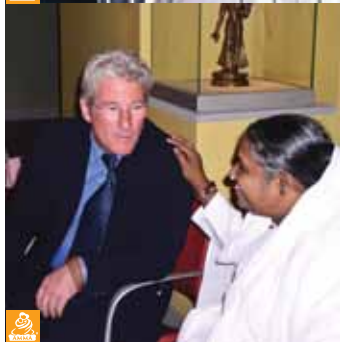


国際的評価

この20年間、世界平和と宗教の協調に関する国際会議で、アンマはたびたび基調講演を行ってきました。1993年には100周年を迎えた世界宗教会議で、ヒンドゥー教総裁の名を受けています。国連ミレニウムを記念した世界平和サミットで講演を行った際に、2002年のガンディー・キング平和賞を受賞しました。(プレゼンターは国連平和大使のジェーン・グドール博士、故セルジョ・デメロ元国連人権高等弁務官)2006年には、2005年のノーベル平和賞受賞者であるモハメド・エルバラディ、俳優で人権活動家のリチャード・ギアとならび、霊性の指導者として、そして人道活動家としての際立った活動により、ジェームズ・パークス・モートン・インターフェイス賞を受賞しました(ニューヨークのインターフェイス・センター)。授賞式に臨んで、ジェームズ・パークス・モートン卿はアンマについて次のように語っています。「あなたは私たちが信じて守りたいすべて、それを体現しています。」2010年、ニューヨーク州立大学(略称SUNY)がアンマの世界平和に対するたゆみない努力、教育に注ぐ意欲、そして世界各地の貧困に対する取り組みを認め、人文学の名誉博士号を授与しました。

アンマはこれらのフォーラムで、困難な道のりを人類がうまく乗り越えていく方法について、彼女の展望を分かち合いました。宗教間の不協和音から調和へ。テロリズムから平和へ。男女の競争から相互理解と協調へ。国家間の戦争から貧困への共同戦線へ。環境の破壊から調和のとれた環境へ。アンマの発言をきっかけに、私たちはそれぞれに深く考えはじめ、細心の行き届いた社会を建てなおす取り組みに加わるようになります。

アンマのスピーチは危機にある人類への処方箋となっていて、私たちの時代が抱えるそれぞれの緊急の課題について、ポジティブな変化のために明確で実践的な提言を出しています。





ニューヨーク州立大学バファロー校から アンマに名誉博士号

2010年5月、ニューヨーク州立大学(略称SUNY)がアンマに人文科学の名誉博士号を授与しました。アンマの教育に注ぐ意欲、そしてインドと世界各地の貧困や人々の苦しみと取り組む際に彼女の慈善団体がもてる幅広い影響力から、世界平和に対するアンマの飽くなき努力を認めたものです。ジョン・B・シンプソン大学総長は式場でこう語りました。「この授与を通じて、すぐれた教育指導者であり、傑出した人道活動家、そして尊敬を受ける霊性の指導者の広範な貢献に敬意を表したいと思います。人道活動およびアムリタ大学での指導力を通じて、アンマ総長は国際的な対話と、世界を舞台にした献身的な社会奉仕の価値を実証しています。グローバル社会への意義ある貢献ができる人材となることを学生に求めている国際的な公立大学にとって、それは我々の使命の核となる価値観です。」



インド大統領がMAM®にパラッスラジャー賞を贈る。

※マーター・アムリタナンドマイ・マート

賞は パラッスラジャー慈善財団より、多様社会に対する顕著な貢献に授与されます。

インド大統領より 慈善活動に 国家的表彰

2010年2月19日インドのプラティーバ・パティル大統領は、大統領公邸ラシュトラパティ・バヴァンにてスワミ・アムリタスワルーパーナンダに「ダルマカードウカム」を贈りました。この賞はインドのエンブレイシング・ザ・ワールドの慈善活動(構想・実施はMAM®)を評価したもの。パラッスラジャーロイヤル



アンマの受賞とスピーチ

ニューヨーク, 2010 : ニューヨーク州立大学バッファロー校より、名誉人文博士号を授与

ニューデリー, 2009 : ヴィヴェーカーナンダ国際財団の開所式で主賓

ジャイプール, 2008 : 「女性による地球平和行動」2008年サミットにて基調講演

パリ, 2007 : シネマヴェリテ映画祭にて、人道的活動と平和運動により、シネマ・ヴェリテ賞を受賞

ニューヨーク, 2006 : ジェームス・パークス・モートン・インターフェイス賞を受賞

ブナー, 2006 : 哲学者および聖者シュリー・ニャーネー・シュワラ世界平和賞受賞

ロンドン, 2005 : マハーヴィル・マハートマ賞を受賞

コーチ, 2005 : ロータリー国際クラブの百年伝説賞を受賞

バルセロナ, 2004 : 「2004年世界宗教会議」にて基調講演



アンマの話は総じて、私たちの時代の最も緊急な課題を取り上げ、危機に瀕している人類のための処方をもめています。

ジュネーブ, 2002 : 「非暴力への世界運動」よりガンジー・キング平和賞を受賞(国連総会議場にて)

ジュネーブ, 2002 : 「宗教・霊性の女性指導者による世界平和会議」にて基調講演(国連総会議場にて)

アメリカ, 2002 : ヨガ・ジャーナルより、カルマ・ヨギ・オブ・ザ・イヤーを受賞

ニューヨーク, 2000 : 「ミレニアム世界平和サミット」にて基調講演(国連総会議場)

シカゴ, 1998 : ケア & シェア・インターナショナルよりイヤー・オブ・ヒューマニタリアンを受賞

ニューヨーク, 1995 : 国連創立50周年記念、異宗教間会議における祝賀スピーチ

シカゴ, 1993 : 世界宗教会議100周年式典にて講演。ヒンドゥー教総裁の名を受ける

アメリカ, 1993 : ヒンドウイズム・トゥデイより、ヒンドゥー・ルネッサンス賞を受賞

アムリタワルシャム50

世界平和と調和への祈り

2003年9月：アムリタワルシャム50は、アンマ生誕50年の祝いを超えた世界平和と調和の祈り—世界のために人類を一つにつなぐアンマの力を、美しく表現したものでした。50万人以上の人々が四日間の式典のためにインドのコーチに集まったのです。式進行の頂点は華やかな儀式—世界各地から採集した水の合流祭と国連加盟191ヶ国のパレードでした。数百人の参加者が191ヶ国からの水と国旗をもって行進し、人と熱気と、古代から伝わる平和の祈り「オーム ローカーハ サマスターハ スキノー パヴァントウ」(世界中が平和で幸せでありますように)が響きわたっていたスタジアムに入りました。世界平和と調和を願う美しい祈りの中で、アンマはすべての水を、一つの壺に注ぎいれました。国際的な経営者、教育者、精神的指導者、自然保護活動家、インドの政治家、芸術家、そして約20万人の参加者が連日スタジアムを埋めつくしました。



国連加盟191ヶ国からの代表と20万人の来場者が4日間の祝祭を連日埋め尽くしました。

特別諮問資格

国連機関との協同

インドでのエンブレッシング・ザ・ワールド(ETW)の活動はマーター・アムリターナンダマイー・マート(MAM)によって構想、実施されています。2005年7月24日には、国連はMAMに特別諮問資格を与えました。これによって国連諸機関との協働が可能になりました。この資格授与はMAMの際立った災害救援活動およびその他の人道活動に対する評価によるものです。2008年12月には国連の広報局がMAMを、広報、および人道問題に関わるリサーチを補佐して提携するNGOとして認めました。

各界の著名人によるコメント

“多くの政府より、アンマの方が人々を助けている。．．．アンマの貢献は多大です。” — ムハマド・ユヌス教授、2006年ノーベル平和賞受賞、グラミン銀行総裁

“アンマは本当に愛、思いやり、そしてエネルギーの巨大な泉です。これを少しでも我々が取り入れることができれば、世の中に幸せだけが残ります。．．．私ができることはほんのわずかかも知れませんが、アンマからの刺激を最大限に生かしたいと思います。” — ムラジェンドラ・クマール・パチャウリー博士、気候変動に関する政府間パネル(IPCC)議長（パチャウリー博士が議長だった2007年にIPCCパネルがノーベル平和賞を受賞）

“集まった資金のうち、どの程度が実際に必要とする人々のところで役立てられているかを知って驚きました。アンマはのびのびと直感的に行動します。これがスピードと弾みを生み、官僚的でないため、とても効率良く人々を動かし、それで集まる人々と動くので、必要とする人に時を得た、質の高い支援をすることが可能になります。驚くべきことです。国際的NGOや国連諸機関は、アンマの仕事や実績から学ぶものがあると思います。” — オララ・オトゥヌ、前国連事務次長、前子どもと武力紛争に関する国連事務総長代表

“私がアムリタプリーから学んだことを分かち合いたいと思います。それは与えることです。—与えつづけよう。私たちは与えることができる。お金だけではない。叡智を分かち合えるし、痛みも取ってあげられる。苦しむ人のもとへも行ける。私たちの誰もが、貧富に関わらず、与えることができる—これが、アムリタプリーからいただいたメッセージです。この地域、ケーララ、インド、そして世界のすべての人にアンマが与えている、これほど偉大なメッセージはありません。” — A.P.J.アブドゥル・カラム博士、前インド大統領

“私は信じます。彼女が私達の目の前に立っているのは、神の愛が人間の姿をとって現れているのだと。” — ジェーン・グドール博士、学術博士、霊長類学者、人類学者、国連平和のメッセンジャー

“アンマを思い、彼女の献身と奉仕の人生を考えると、私はそこに、敬意、慈悲、心配りの精神という、私たちのための輝かしい鏡を見るのである。” — スティーヴン・ロックフェラー博士、フィランソロピスト、教育家、社会活動家

“アンマはこの地球が存続するために私たちが必要とするある種のリーダーシップを見せている。私が今までに出あった中で、おそらく最も英雄らしい人物である。なぜなら彼女はそこに座って人びとを抱きしめているからだ。これが誰もが今できる最も英雄らしいことである。互いに撃ち合うのは英雄らしくないから。最も英雄らしいのは労わること、彼女は実際にそれをしている。” — スーアリス・ウオーカー、ピューリッツァー賞受賞作家

“無私の奉仕と慈善活動を訴えながら、アンマはきつと、未来の世界に多大な影響を及ぼすだろう。私はそう信じている。” — ワイン・ティースデール博士、カトリック修道士、世界宗教会議元理事

エンブレッシング・ザ・ ワールド(ETW)

インターナショナル

エンブレッシング・ザ・ワールド(ETW)は、マザー・アムリターナ・ダ・マミー・マート(MAM)のインドを拠点とした慈善活動から生まれた、各国各地の慈善団体および活動の世界的ネットワークです。「エンブレッシング・ザ・ワールド」は世界の貧しい人びとの苦しみが軽減されるように、時と場所が許す限り、食料、住居、教育、保健医療、収入創出という五つの基本的ニーズがかなえられるようにと支援しています。現在40カ国以上で活動中。これらのニーズを満たすことはどの人間にとっても基本的な権利であると信じていますし、いつかはすべての人間が尊厳と安心と安全と平和のなかで生きることができるように精一杯の働きをするのは私たちの義務である、と考えています。アンマは誰もが、富める者、貧する者ともに、他の誰かの人生をよくする力がある、どんなことであれ、無私の精神で行われたものは大きい、と教えます。さらに言えば、誰かのために行う無私の行為が、真の平和と一個人の平和、コミュニティの平和、多種多様な文化、国家、信条の間の平和のカギをにぎるのです。多くの国のアンマのセンターは、この人道的な努力に貢献しています。よりよい世界のために私心なく奉仕する、この精神に人びとの心が向かいはじめます。



ETWのプロジェクトは世界各地のアンマのセンターから支援を受けています。

上からスペイン、フランス、アメリカ、
カナダ、ドイツ、モーリシャス、日本、
オーストラリア、スイス、ベルギー





災害救援



2011「東日本大震災みやぎ子ども育英募金」へ寄付(100万USドル)

2010年ハイチ大地震生存者の子どもたちへ必需品と食料、奨学金の提供

2009年カルナータカ/アーンドラプラデーシュ両州(インド)の洪水生存者救援
(1千70万USドル)

2008年ビハール州(インド)洪水救援(46万5千USドル)

2005年ムンバイ洪水生存者の診療(100万USドル)

2004年インド洋津波の生存者救援(4千600万USドル)

2001年グジャラート大地震生存者の新住宅1,200戸



医薬品を受け取る生存者、アーンドラプラデーシュ州



衣類を受け取るサイクロン生存者、西ベンガル州



祝祭2004年インド洋津波の後、救急車の出動

世界中で 迅速な対応

4千6百万USD（約37億円）の津波救助プロジェクトで良く知られているエンブレイシング・ザ・ワールド（ETW）のボランティアは、ここ10年で最も壊滅的な自然災害で活躍しています。2011年東日本大震災の3日後に、ETWのボランティアが被災地に到着しました。2010年ハイチ大地震には、救援物資をパートナーズ・イン・ヘルス法人に送り、食料や奨学金を生存者に提供しました。2009年には、250万人の被害者を出した南インド大洪水に約1千1百万USDの救助資金を発表しました。2005年には、最先端の技術を使ってハリケーン・カトリナ、ハリケーン・リタの救助活動を多角的に取り組みました。

2001年以降ETWは多発する自然災害に対応し、緊急の人道援助と長期的な復興計画の両面からの支援をおこなってきました。災害地に真っ先に駆けつけ、世間が忘れ去った頃最後に引き上げることのできる定評があります。生存者に対するアンマの共感と気遣いは徹底しており、あらゆる面からの支援を惜しみません。アンマは、生存者の物質的、情緒的な必要を満たすだけでなく、彼らの将来をも見守ります。ETWの長期的な支援は、人生で最も悲惨な暗闇を体験した多くの人々に、希望に満ちた未来という光を送っています。



災害の後、がれきを除去するETWのボランティア



避難している人々に、食事の提供



宮城県知事に、「東日本大震災みやぎこども育英募金」への
100万USDドル寄付の目録を贈呈

東日本大震災 および津波被害

災害の起きた3日後に、エンブレイシング・ザ・ワールド(ETW)はボランティアのグループを被災地に送り、食物と水の配給を行いました。石巻市での2度のボランティア活動を経て、ETWの救援チームは人口2万3千人の岩手県陸前高田市に、集中的な支援を実施することになりました。

陸前高田市の人口のおよそ10パーセントは災害で亡くなり、市の職員の三分の一を失っています。2011年4月末の時点で、人口の70パーセントが家屋の損傷や崩壊により、88ヶ所の避難所で暮らしています。1度目の訪問の後、市の災害救助活動本部より、ETWに救助活動を継続するよう公式な要請がなされました。これを受けてETWは、食料、必需品、助けの手を携えて、陸前高田市への定期的な救助を開始しました。

ETWは陸前高田市で次の様な活動を行ってきました：避難所で料理、食事配布、掃除、洗濯、民家のがれき撤去、泥かき、共同スペースの掃除、支援物資の仕分けと配布、大量の新鮮な野菜の寄付：そして、農作物の生育期に向け、ボランティアたちは畑のがれき撤去も手伝いました。同市民の当面の要請に継続的に対応しつつ、より長期的な救援も視野に入れています。2011年7月、アンマが日本を訪れた際に、アンマは両親を失った子供たちの教育のために、「東日本大震災みやぎこども育英募金」へ100万USDドルの寄付をしました。



配給する食品を袋詰め



ETWは医療備品をパレット11台分送付



ハイチ大地震

2010年1月に地震がハイチを襲った後、エンブレイシング・ザ・ワールド(ETW)はただちに二週間をかけて医療品パレット11台分を空輸しました。備品はハイチに向けて20年間活動を行っているボストンの慈善団体 Partners In Healthが受け取りました。

医薬品、応急手当の備品、診断備品、毛布、テント、寝袋、産科・小児用補給品、車椅子、杖、ブレース、スプリント、生理用食塩水などが含まれていました。

ハイチの雨季に備え、4万4千ポンドの工業用シートも送られました。

その後、シーツ、毛布、タオル、栄養ドリンク、車椅子、医療備品が、12メートル幅コンテナで送られました。

ETWからも数人が現地を訪れて米や豆といった主要食品を被災世帯に配りました。

被災児童の為に 奨学金

ETWは3ヶ所の学校から校長の判断を受け、優等生であつたけれども震災後に復学ができなくなってしまった生徒を30人選びました。多くが両親や近い親戚を失ったために学費の負担が困難になっていました。ETWは以上の生徒30名に奨学金を給付し、子供たちは再び学校に通いはじめています。



カルナータカ州シュリー・B・S・エデウーラッパ州首相
が100戸の住宅の鍵をシンボルとして受け取る

カルナータカ州洪水 救援資金

2009年9月および10月、アーンドラプラデーシュとカルナータカの両州(インド)が不測の洪水に遭い、数百エーカーの農作物が被害にみまわれ、250万人が避難しました。それに対処してETWは1千70万米ドル(約10億7千万円)相当の救援を実施しました。食料、衣料、ベッドシート、毛布、遠隔医療装置が迅速に送られ、あわせて12名の医師と数十名の医療補助員によるチームが避難キャンプや被災地域を定期的に巡回し、一日当たり500名の患者を診察しました。

2010年2月17日、カルナータカ州の政府と生存者向けの住宅を建設する取り決めを行ったあと、20日後には100戸を完成しました。ETWは生存者向けの住宅を完成させた、最初のNGOとなりました。カルナータカ州の州首相は、ETWの迅速な活動がその他の団体を刺激して、より活発な救援が行われることを望んでいると述べました。

2012年には、1,000戸の家が完成し、避難生活をしている人々に渡されました。

カルナータカ州ライチュール地区にある生存者向け住宅





遠隔医療車を列車でビハール州に輸送



ビハール州の洪水被災キャンプで勉強する子供たち



2008年ビハール洪水救援の計画を立てる

洪水救援 ビハール州

2008年8月、ビハール州のコシ川のダムが崩壊し、100万人以上がホームレスになりました。同年9月10日、ETWIは47万USドル（約3千8百万円）の救援を発表しました。約2,500キロ離れたコーチ市から救急車や遠隔医療設備を列車で送りました。エィムズ病院から専門医師、および救急救命士が派遣され、毎日約500人の患者の治療にあたりました。ブルニア地区、そしてスパウル地区には7カ所の仮設避難所が建てられ、1,500人の被災者が収容されました。スパウル地区には1ヶ月間仮設病院を設けました。医療チームはビハール州に2ヶ月間以上残り、100カ所の医療キャンプでおよそ5万人を治療しました。また、7万USドル分（約560万円分）の薬が提供されました。数千人分のテント、毛布、防水シート、料理道具、食料品、医療品、そして学用品が配布されました。ビハール州労働大臣、アブデーシュ・ナライン・シン氏は次のようにコメントをしています―“マーター・アムリターナンドマイー・マート（MAM）※のボランティアは、一日中生存者を助けるために働いています。睡眠も取っていない様子です！我々の支援要請に応え、この必要な時に駆けつけてくださったMAMIに、心から感謝を申し上げます。”

※エンブレイシング・ザ・ワールドの、インドに本部を置くNGO団体。



地震救援ーカシミール

西ベンガル

2009年5月、西ベンガルとバングラデシュを襲ったサイクロン・アイラによって330人が死亡、100万人が家屋を失いました。10日間にわたる医療キャンプで、約3千人がETWの医師による治療を受け、2千ドル以上の医薬品が使用されました。ETWのボランティアによって約800点の衣類や毛布、6千食の食事、2トンの米が無料で配給されました。

カシミール

カシミールとパキスタンの国境地域に被害をもたらした2005年の大地震に対応して、ETWは救援チームを送りました。チームは生存者に声かけを行い、食料や毛布、その他の必需品を配給しました。



洪水救援ームンバイ

ムンバイ

2005年7月、大洪水により数百万人が被災、特にスラムの住人は掘立て小屋が流されるなどの被害を受けました。ETWは急きょ、炊き出しの食事、寝具などを配りました。エイムズ病院の医師団は最先端設備を搭載した救急車二台とともに約5万人の患者を診療し、100万USDドル（約1億円）に相当する医薬品を配給しました。



地震救援ーグジャラート

グジャラート

2001年1月、グジャラート州を大地震が襲いました。この地震で2万人もの人が亡くなりました。アンマは12人の医師、救急車2台、アムリタ大学の学生ボランティア100人から成る災害救援チームを現地に派遣しました。ETWは村の指導者と会合し、全ての村の復興を受け、1,200戸の住宅が再建されました。

2006年8月、同州スラートは深刻な洪水に見舞われ、300人が死亡しました。ETWは医療チームを派遣し、3千人以上の患者を診療し、3万1,500USDドル相当（約315万円）の医薬品を配給しました。



クンバコナム 幼稚園火事の 生存者支援 タミルナードゥ州

2005年7月、タミルナードゥ州にある小さな村の幼稚園に火事がありました。92人の子供が命を失い、18人が重度のやけどを負いました。アンマは生存者の家族140人、そして生き残った子供と会いました。アンマは一人一人を慰めながら、彼らが立ち直るのを支援する方法を探しました。彼らは、火事の後も貧困に苦しんでいました。ETWは生存者の家族に、51件の住宅を建てました。そして、生存者の母親が生計を立てられるように、ミシンを配布しました。

ハリケーン・カトリーナ アメリカ

ハリケーン・カトリーナとハリケーン・リタの襲来後、北米で100を超えるETWグループによって食物や衣類、学用品その他の生活必需品が生存者に届けられました。きめ細かい医療措置や情緒面の支援も実施されました。ETWのボランティアは被災地を訪れ、行方不明者を見つけるためのウェブサイトを立ち上げました。2005年12月、ETWの代理としてMAセンター（カルフォルニア州サンラモン）はブッシュ・クリントン・カトリーナ基金（2人の元米国大統領、ブッシュ氏とクリントン氏の運営）に100万USD（約1億円）を寄付しました。この寄付は、基金が単独のNGOから受け取った最も高額な寄付の一つに数えられています。

グジャラートでの人命救助

MAセンター(米)からの小切手を受け取る
クリントン元大統領





2004年、インド洋津波がケーララ州を襲った。津波が
アムリタプリ・アシュラムに流れ込もうとする瞬間



津波から数日後、ETWの救援キャンプで困惑する
生存者たちをなぐさめるアンマ

2004年 インド洋 津波

2004年のインド洋津波に際してETWが行った救援復興活動は、単独のNGOによるものとしては最も多面的、かつ広範囲で持続的な災害救援計画の一つとして、今でも高く評価されています。ETWの救援復興活動で際立っているのは、その包括的な質です。事実、津波生存者の生活は全てに関して配慮され、改善されました。最後には多くの生存者が、生活レベルと経済的独立という面で、被災前よりも向上したと述べています。

2004年12月26日の朝、津波はアンマのアムリタプリ・アシュラムと近隣の村々を襲いました。140人の村民が亡くなりました。アンマのアシュラムにいた2万人を含む多数の人々がアンマの陣頭指揮のもとに避難しました。数時間のうちに、近くのアムリタ大学は巨大な救援キャンプに様変わりしました。アンマはきめ細かい配慮の上で必需品すべての手配をしました。ETWはケーララ州のコッラム、エルナーケラム、アーラップラ各地区の家庭に向けて、調理器具購入に当てるために総額35万500USドル(約3千505万円)を支給しました。ETWは村の避難民2千人の他、州営避難所12ヶ所に入った1万5千人にも炊き出しを行いました。災害直後からボランティアたちは取り乱した村人を慰め、家屋の周りの瓦礫を片付ける手伝いをしました。11台の救急車、および医師、看護師のチームがインドの両海岸に駆け付け、24時間体制の医療センターを設けました。救急車チームは全ての避難所を数時間ごとに回り、集中治療にあたりました。アンマの出家弟子たちが葬儀の手伝いを行ったほか、ETWはカウンセリング、教育、孤児となった子の里親探しをしました。



ETWはケーララ州のコラム地区、エルナークラム地区、そしてアラップザ地区で暮す家族が、新しい料理器具を購入することができるように、35万USドル(約3千505万円)を寄付しました。ETWは、数カ所の救援キャンプとアムリタプリ近隣の村々に設置された18ヶ所の炊き出し配給所で、毎回1万食の食事を1日に3度配給しました。悲劇から数週間と経たないうちに、家を失った人々の避難所九棟の建設がMAM(マター・アムリターナンドマイー・マート)の敷地内で完了しました。各棟とも電気、天井扇風機、屋外バスルームを完備していました。ETWは、ケーララ州アーラツパード地域、タミルナードゥ州サーマンタンペッタ地区にも550世帯収容の避難所を建設しました。これらの臨時避難所は、エイムズ病院およびアムリタプリ・アシュラム病院と医療衛星通信によって接続されました。津波の後3ヶ月間に、インド国内と海外から集まった2万人のボランティアがETWの救援活動に従事しました。



ケーララ州の臨時避難所

アンマの誓約

2005年1月、ETWは津波生存者の救援に2,300万USドル(約23億円)を投じると発表しました。ケーララ州の倒壊家屋の再建だけでなく、タミルナードゥ州、ポンディチェリー、アングマーンとニコバル諸島での再建も申し出ました。

津波救援活動の2年目を終える2006年末までに、ETWの支援総額は、当初予算の倍にあたる4,600万USドル(約46億円)に達しました。



セラピーで子供が書いた絵

カウンセリング サービス



水への恐怖を克服するようアンマが助ける



調理器具を購入するための現金を渡す

津波災害の数日以内に、アンマは精神科医、心理療法家、ソーシャルワーカーからなるチームを編成し、被災家族へのカウンセリングを開始させました。生存者の多くが、特にわが子や愛する人が溺れていくところを目の当たりにした人々は、心的外傷後ストレス症候群の症状を訴えていました。カウンセラーたちは、子供も大人も自分の痛みを表現し、それと取り組むように支えました。子供達はセラピーの一部として絵を描くように勧められました。彼らの多くは、濁流に吞まれた村や、命がけでココナツの木にしがみつく人の絵を描きました。ETWでは子供達の水泳教室も行い、精神的ショックがもたらした水に対する恐怖心を乗り越えるのを助けました。これらのカウンセリングは、海に面した村に帰らなければならない家族に勇気を与えました。

調理器具からカウンセリングまで、そしてその中間にあることの全て：津波生存者たちは、生活のあらゆる面で支援されました。ETWの救援活動を際立たせているのは、この包括的なアプローチです。



双子のエクナートとアムリタクリバを抱くアンマ



子供を亡くした母親への 医療援助

津波によって子供を失った母親達の中には、永久的な避妊法としての卵管結紮(けっさつ)をすでに済ませていた人たちがいました。今後二度と母親としての喜びを味わえないと気づいた多くの人が、うつになったり、自殺を考えたりするようになりました。アンマはそういった母親達が受胎可能となるための、卵管再疎通手術を提案しました。6人の母親がエイムズ病院にかかり、ETWIは全費用を負担しました。2008年10月現在、6人全員が出産し、うち3人は双子の母となりました。



津波で被災したコッラムの子供たちに語りかけるアンマ



子供キャンプ

ETWIは、ケーララ州のコッラムやアーラップラなどの被災地から来た子供たちのために、英会話、ヨーガ、サンスクリット語などの特別学習コースを開催しました。2005年4月25日～29日、5月22日～24日の2コースに総計1万人を越える少年少女が参加しました。

コース期間には約5千人の子供がアシュラムに滞在しました。津波の後に水を恐れるようになった子供たちが多かったため、アンマは自ら子供たちをアシュラムのプールに連れて行き、恐怖を克服する手助けをしました。また、子供たちの才能を披露する機会が設けられ、歌や踊りといった文化発表を行いました。多くの子供たちにとって、このような文化教育を受けるのは、いかなる形にせよ初めての経験でした。



津波で被災したアーラップラの子供たちに語りかけるアンマ





ETWがケーララの入り江に架けた避難橋

避難橋

津波の被害があった1ヵ月後、別の津波が来るという注意報と避難命令が2度出されました。注意報は誤報でしたが、アンマは、ボートが混雑することと、沿岸から避難するためにかかる時間を憂慮しました。アンマがアーラツパード地区とケーララ本土を結ぶ避難橋の建設を決定したのは、そのときです。

2006年12月20日、当時のインド大統領A.P.J.アブドゥル・カラム博士が、アムリタセトゥ避難橋の落成式を行いました。この橋はETWによって建築され、アーラツパード地域に再び自然災害が発生した場合、1万5千人が30分以内に避難することができる主要な避難経路となります。

橋はわずか一年あまりで完成し、ETWが資金と建築作業を全て負担しました。建設費用は132万USドル(約1億3,200万円)でしたが、外部の業者に依頼したとしたら、その2倍の費用がかかっただろうと言われています。

この橋が兩岸だけではなく、愛と同胞意識の象徴として存在し続け、人の心もつなぐことができますように。アンマ

アンマとインド大統領(当時)のA.P.J.アブドゥル・カラム博士ー
アムリタセトゥ避難橋の落成式にて





津波救援キャンプを訪問するアンマとスリランカの
マヒンダ・ラージャパクサ首相



アンマとチャンドリカ・クマラトゥング大統領(当時)
の会見



「アンマは私達の結婚式に費用を出してくれました。
エンジン付の舟をくれたし、この家も。
そして今新しい赤ん坊もいます。
アンマのおかげでまた家族として暮らせそうです。」

スリランカ

「信仰、人種を問わず、すべてのスリランカ国民に
祝福を与えるとともに、国民の生活に平安と繁栄
をもたらしてほしい」

2006年、アンマはスリランカ政府から招聘を受け
ました。3日間の訪問でアンマはアンパラのタミル
人地区にある救援キャンプ2ヶ所を訪れ、1万5千
着のサリーとドーティを配りました。またマヒンダ・
ラージャパクサ首相(当時)の同伴を受け、ハンバ
ントッタにあるシンハリ人地区の救援キャンプも訪
れました。

アンパラでは、敵対するシンハリ人の政府軍兵士
とタミル人武装勢力の兵士がアンマの抱擁を受け
にきました。アンマはチャンドリカ・クマラトゥンガ大
統領(当時)とも会見し、人々の苦しみにとれほど
心を痛めているかを伝えました。そしてヘルスケア
チャリティーズUSA(米国ETWが設立した組織)
を代表して、68万5千USD(6,850万円)の救援基
金を提供し、シンハリ人地区とタミル人地区の双方
への住宅建築支援を行いました。96戸の住宅が
2007年1月に完成しています。

職業訓練

津波の後、海に頼らないで暮らせるような仕事を見
つけてくれるよう、村人たちがアンマに頼みまし
た。アンマはそれに応えて、男性には新しい仕事を
学ぶための、女性には職に就くための職業訓練を
開始しました。ほとんどの人は、そのような訓練を
受けたことがありませんでした。政府機関や、世界
的指導者たち、そして国際連合から「組織を越えた
組織」であると賞賛を受けたのは、災害救援を大き
な視野でとらえるこのような見方に負うところが大
きいと言えます。



鍵の譲渡式におけるアンマとタミルナードゥ州首相(当時)



タミルナードゥ州で配給されるのを待つエンジンと舟

タミルナードゥ州とポンディチェリー州

津波はタミルナードゥの沿岸部およびポンディチェリーに、とりわけナーガパティナム地区に打撃を与え、そこでは7千人の命が奪われました。アンマの弟子たちは災害救援体制を敷き、9,500人の避難民に医療処置と衣類の給付を行いました。その後数ヶ月間でETWは185トンの米を配給しました。

アムリタ大学から来た何百人もの学生、エイムズ病院の医師たち、ボランティアたちが、被災地の人々を助け、慰めました。ETWは7カ所の救援キャンプを設営、100世帯を収容する避難所を建築して村民全員を収容し、数千もの住宅と公共施設を再建しました。ETWはまた、子供と成人に向けた教育と職業訓練も行いました。

2005年2月にアンマがこの地域を訪れ、ETWの臨時避難所に暮らす家族を見舞いました。何千人もの人びとが悲嘆にくれたままアンマに会いにきました。アンマは愛情深く人々を勇気づけ、海辺に住むことへの恐れを鎮めました。

ナーガパティナムの臨時避難所



津波生存者に新しい衣類を手渡すアンマ





カンヤークマリー、タミルナードゥ州



ヴィダクダンチュール、ボンディチェリー州



エルナークラム、ケーララ州



典型的な津波救済住宅、ケーララ州

津波住宅 6,296 戸完成

ETWの大規模な津波救援プロジェクトの核は、インドのケーララ州とタミルナードゥ州だけでなく、アンダマーン諸島とニコバル諸島、およびスリランカで6,296戸の住宅を建設することでした。タミルナードゥとケーララ両州において、ETWは政府基準にしたがって津波救援の家屋を完成させた最初の非政府組織でした。2008年10月現在で6,296戸全てが完成し、入居者に渡されています。

ETWの活動を評価したインド大統領(当時)のA.P.J.アブドゥル・カラム博士は、タミルナードゥの住宅建築現場を訪問するとともにケーララ州にあるアンマのアシラムも訪れ、ETWが建築した新居の鍵を津波生存者に直接手渡しました。(A.P.J.アブドゥル・カラム元大統領は長年にわたってアンマ、そしてアンマの人道活動を尊敬してきました。2003年に彼が大統領に就任した際、アンマの様々な慈善活動に資金を提供するために、最初の10ヶ月分の給料を寄付しました。)



ETWは政府基準にしたがって津波救援の家屋を完成させた最初の非政府組織でした。2008年10月現在で6,296戸全てが完成し、入居者に渡されています。



サーマンタンベッタイ、タミルナードゥ州、ナーガパティナム



ブドクパバン、タミルナードゥ州クダロール

タミルナードゥ州

クダロール、カンヤークマリー、ナーガパティナムにおいてETWIは電気や水道、道路整備、保育施設、その他の施設をそなえる住宅集落を建てました。

ケーララ州

建材トラックが入れないような入り江沿いや小島にも、多くの家が建築されました。世界中からのボランティアおよびアシュラムの住人が、ブロックや砂、砂利の運搬を手伝いました。コッラム、アーラップラ、エルナークラムの各区においても住宅が建てられました。



メーラパティナーチェリー、タミルナードゥ州ナーガパティナム



テッカワッタの集合住宅、スリランカ、カルタラ



バンブーフラットのツインタイプの家、南アンダマーン



ペリヤニラヴァナイの集合住宅、スリランカ、アンバラ

津波住宅

スリランカ & 南アンダマーン

シンハリ人居住地であるテッカワッタ（西部州カルタラ区）の村と、タミル人居住地であるペリヤニラヴァナイ（東部州アンパラ区）の村で、96戸の住宅が建設されました。それぞれの村に3階建てのビルの集落が作られ、各棟に12世帯が住めるようになっています。

インド東沿岸部から千キロ離れたアンダマーンとニコバル諸島も、津波の被害を被りました。ETWは南アンダマーンのバンブーフラットとオースティナバードに200戸の家を建てました。概算で1,000トンに及ぶ建築資材は、すべて本土から運搬しなければならず、その経費は480万USドル（約4億8千万円）に上りました。住宅は一戸当たり46㎡のツインタイプ設計で、トイレ付き浴室が完備されています。鉄骨構造のため耐震性があります。2008年の9月に完成しました。



津波の被害を受けた漁民たちが新しい漁船で出航を待つ

長期的 津波救援 プロジェクト

2008年10月現在、ケーララ、タミルナードゥ、ボンダイチェリー、アンダマーンとニコバル諸島、およびスリランカで合計6,296戸の住宅が完成し、入居者に渡されました。タミルナードゥの2つの村とアムリタプリーのアシュラム周辺では、津波で夫を亡くした女性に生涯年金が給付されています。ETWは、タミルナードゥ州とケーララ州の被災集落に、漁船、エンジン、漁網を一式そろえた700組を寄贈しました。金額にして100万USD（約1億円）になります。漁船1隻で平均7家族を養うことができます。さらに、2,500人以上の若者たちに無償の教育と職業訓練を提供しました。エイムズ病院で800人が看護助手の教育訓練を受け、ETWの職業訓練センターで1,000人が職業ドライバーや警備員の訓練を受けました。また、女性7人がマイソールのアムリタ教育学校で教員養成の訓練を受け、700人以上の女性が裁縫と手工芸を習得しました。



ケーララ州で仕立て屋になるための訓練を受ける女性たち



生涯年金の給付



女性の 自立支援



貧困地域の10万人以上の女性に、家内事業を可能にする、
職業訓練、開業資金、小口融資、小口預金の援助



アマリタ・シュリー 自立・教育・雇用支援プログラム

エンブレッシング・ザ・ワールド(ETW)のアマリタ・シュリー・プログラムは、2004年のインド洋津波後に前身が生まれましたが、正式には2006年、5千組の自助グループを育成して10万人の女性を救済するという目的で始められました。2010年にはこの数字に到達しています。現在では、6千以上の自助グループに、10万人以上の女性がインド各地で参加しています。アンダマーン諸島でも1千組の自助グループを立ち上げています。

職業訓練、資本金の提供、市場調査、協力銀行からの小口融資や小口預金口座の手配などを通して、無職または経済的に弱い立場にある女性が、技能と経営方法を習得して、小規模な家内事業を始められるよう支援します。調査によれば、女性に経済的自立の機会を均等に与えることは、地域全体の貧困を減らすのに最も効果的な方法の一つだといわれています。

エンブレッシング・ザ・ワールド自助グループはインド準備銀行(Reserve Bank of India)と国家農業農村開発銀行(National Bank for Agriculture and Rural)の協力をもとに成り立っています。ボランティアでこのプログラムに携わっているコーディネーターは、職業訓練を始めるにあたってまず、その地域特有のニーズ、すでに人々が身につけている技術や資源について調査します。職業訓練の内容は地元の人々からの提案をもとに選定され、実績のある職業訓練学校に委託して行われます。最終的には自助グループは、地理的な距離を基準に選ばれたおよそ20人の女性で構成されます(グループのメンバーである女性の家族であれば、男性でも職業訓練を受けることができます)。

グループは自主運営ですが、エンブレッシング・ザ・ワールドは彼らがうまく自立できるようサポートします。職業訓練に加えて、各グループが実現可能な事業計画を立てられるよう助け、グループの製品を卸売りする際の包装や、マーケティングの手助けをします。



マイクロファイナンス

エンブレッシング・ザ・ワールドは各自助グループに資本金を提供しますが、収益を最大限に運用するため、事業開始と同時に銀行口座を開かせるようにしています。各グループのメンバーは毎週最低10ルピーを預金しなくてはなりません。預金残高が1千ルピーに達したらお金を引き出してグループ内で最低金額の利子で貸付ができるようになります。事業開始後の半年間に銀行がグループの財政管理能力を査定

し、適格だと判断されれば新たに事業を始めるための融資を受けられるようになります。また、最初の6ヶ月間に預けられた資金については、その金額に対して4倍の利子が適用されます。つまり預金額の400%を受け取れるのです。現在までに、4,000組の自助グループが事業を拡大するために小口融資を利用し、6万世帯がその恩恵を受けています。小口融資がグループに有益となるように、ETWは政府の金融機関であるインド準備銀行によって経営されている銀行のみと取引します。こうした銀行の小口融資は政府の指導にしたがって行われています。

経済的な自立

職業訓練を終えると、グループは独立して収益を得る事業グループになっていきます。エンブレッシング・ザ・ワールドは共同作業所を見つける支援をしますが、メンバーの自宅を共同作業所として選ぶグループもあります。ETWは職業訓練や原材料を提供しつつ、グループが主体的に始めたビジネスを維持していけるよう支援します。製品の売上金は全て、自助グループメンバーの収入となります。ETWはいかなる場合でも自助グループからの賠償金や資金の返済などは求めません。

自助グループは広範囲な分野の事業に携わっています。手工芸品、会計、婦人衛生用品、文具、ベーカリー、裁縫、調理、その他。



ETWは現在10万人以上の女性に、職業訓練の機会と開業資金を援助しています。調査によれば、このような形で女性に力を持たせていくことが、コミュニティ全体の貧困をなくするのに最も効果的だと言われています。

生命障害保険 10万人の女性とその家族に



エンブレッシング・ザ・ワールドの女性の自立支援プロジェクトの一環として、アムリタシュリー自助グループの一人一人が(2011年3月時点で10万人以上)インド生命保険(LIFE INSURANCE CORPORATION OF INDIA)の補助金付き保険に加入しました。この制度は契約者が怪我をしたり死亡した際に遺族の未来を支援するものです。契約の一部として、契約者の15%の子供に奨学金が給付されます。ETWは年間単位でこの受給者を交替させることを計画しています。これによって最終的にすべての家族が一年分の奨学金を受け取ることができます。



10万人の 在宅看護師の研修

ここ数年、インドでは病気や障害を煩っているのにもかかわらず、家に誰も彼らの面倒を見る人がいない孤独な老人が急激に増えています。この憂慮すべき問題の解決、そして女性の向上を考え、ETWは2011年に、10万人の在宅看護師を育て上げるプログラム、アムリタ・サントヴァナムを開始しました。ETWは、自らの医療機関ネットワークを使って、6ヶ月間の研修を提供します。研修のほか、各研修生に宿泊、食事、そして給付金が配布されます。既に1,000人の参加者がいます。



住宅建設



住居のない人々に10万戸の住宅を建設するだけでなく、
地域全体に、役場、道路、井戸、電気、下水設備、安全な飲料水を完備

1,600世帯がスラムから新しいアパートに転入



ミルザプール、ウッタルプラデーシュ州

住居のない人々に住宅を アムリタ・クティーラム

今日、6人に1人に適切な住居がありません。粗末な施設、汚染された水、下水設備の不備などの結果、毎日5万人の人々、主に女性と子供が命を落としています。問題は極端なほどに途上国に集中しています。インドだけでも2千3百万人の住居のない人々がいます。しかもこの統計には1億7千万という数にのぼるスラム居住者は含まれていません。

しかし、住居のない人々はずっと希望が無いとは限りません。1997年、エンブレイシング・ザ・ワールド(ETW)はどこよりも先駆けて、インド全域で住宅のないの人々のために2万5千戸の住宅を建設するというアムリタ・クティーラムプロジェクトに着手しました。1998年には当時のアタル・ベハリ・バジパイー首相が、最初の5千戸の無償住宅の象徴的な鍵を、ケーララ州の入居者に手渡しました。2002年までに当初の目標数であった2万5千戸の住宅が建設されました。ETWの手がけた家には平均して6人が住むので、12万5千人が路上または劣悪な避難所から、安全で快適なまさしく我が家に移り住むことができたといえます。このプロジェクト完了直後、アンマは次の目標として、インド全域でさらに10万戸住宅を、住宅のない人々のために建設することを発表しました。これまでのところインド全国75ヶ所以上で4万5千戸以上の住宅が建設されています。

コルカタ、西ベンガル州



住居のない人々はずっと希望が無いとは限りません :1998年以降、ETWはインド全域で、4万5千戸以上の住宅を、住宅のない人々とスラムに住む人のために建設しています。





マンガロール、カルナータカ州



ジャイプール、ラジャスタン州



サティヤマンガラム、タミルナドゥ州



ラーメッシュワラム、タミルナドゥ州



マイソール、カルナータカ州



ハサン、カルナータカ州

地域コミュニティの構築

インド各地の州政府がエンブレッシング・ザ・ワールドに開発用地を供給しました。アンマの出家弟子が住宅の建設、道路整備、電気の供給、井戸掘り、貯水タンクの設置などの指揮をとりました。典型的な住宅の間取りは2部屋とベランダ、戸外のバスルームです。

どの開発地においても、住民がお祭りや祝日の際に利用できるように集会場が設けられています。エンブレッシング・ザ・ワールドによって開発された地区の住民は家賃を支払う必要がなくなるため、以前は手にすることのできなかった生活必需品を購入できるようになります。各地の支部センターは学習塾や成人の職探しなどの形でコミュニティを支えています。エンブレッシング・ザ・ワールドコミュニティは人々が人生の新たなスタートを切るために役立っています。



エルナークラム、ケーララ州



ボバルム、マディヤプラデーシュ州



ラクノウ、ウッタラプラデーシュ州



クダッパル、アンドラプラデーシュ州



ドゥルガプール、西ベンガル州



プネ、マハラシュトラ州



ハイデラバード、アンドラプラデーシュ州

スラム居住者の移転

1999年、ハイデラバード市からアンマに900世帯分のアパートと住宅あわせて20棟の建設依頼がありました。人々の多くが以前はスラムに住んでいましたが、火災によって焼け出され、何年もの間新しい住居を待ち望みながら、まにあわせの小屋で暮らしていたのです。政府からの要請を受けた後、アンマは彼らのもとを訪れ、支援を約束しました。2002年、彼らの新しい家が完成しました。プネーのアジャンターナガルでは、8エーカー（約32,000㎡）にも渡って無秩序にスラムが広がっていましたが、2002年からプロジェクトが着手され、700世帯が新しく住居を手にすることができました。これは政府との合同プロジェクトです。5階建てのアパート11棟を新たに建設している間、人々はエンブレッシング・ザ・ワールドが隣接地に設営した仮設住宅で暮らし、完成を待ちました。アンマのプネーアシュラムでは、この新しく開発された地区で毎週無料の診療キャンプを行っています。現在、エンブレッシング・ザ・ワールドのボランティアはアジャンターナガルの住民を支え続けています。アムリタチェタナプロジェクトは、学用品、無料個別指導、課外活動等を提供することでスラム住民や元スラム住民の学校中退率を下げる努力をしています。



地震生存者のための新たな村、ブージ、グジャラート州

グジャラート州 災害支援の絆

2001年にグジャラートを襲った地震では2万人もの命が奪われました。アンマの対応は迅速でした。エイムズ病院からは災害救命救助チームが急遽派遣されました。アンマの出家弟子は災害直後の危機が去った後も引き続き現地にとどまり、被災者の生活再建のため休むことなく献身的に働きました。エンブレッシング・ザ・ワールドは1千200戸の耐震住宅と共に、集会場、学校、寺院やモスクなどを建設し、3つの村を再建しました。アンマの支援に深く感銘を受けた村の人々は、4年後の津波災害の時には3日間かけてケーララ州を訪れ、被災者のための住宅再建に参加しました。



アティ川、ナイロビ郊外、ケニア:今まではこの地域の主な飲み水として利用されていました

新しい蛇口を使うジャムシティの住民たち



職業訓練センターの生徒



安全な飲料水

アムリタ・ワト・ボマ ナイロビ、ケニア

ケニアのナイロビに開設された子どものためのケアホーム、アムリタ・ワト・ボマで掘られた井戸は、ジャムシティのスラム居住者だけでなくマサイ族の人たちにも、日々の清潔で安全な飲料水を提供します。井戸ができる前は、彼らは長距離を歩いて飲料水を買わなければならませんでした。実際には、ほとんどの住民は近くの川の水を飲料水や調理用に使っていました。この地域で発生する病気の80%は、このような不衛生な水が原因でした。

コッラム、ケーララ州

2007年5月に、エンブレイシング・ザ・ワールドは7100世帯に清潔な飲料水を与えるために8万5千ドル(約680万円)を寄付しました。7100世帯はケーララ州、コッラム地区のチャーヴァラ、およびパンマナパンチャヤッツで貧困基準以下の生活をしています。飲料水はシャーシュタンコッタ湖の水を濾過したものです。

スラム居住者 職業訓練センター

アムリタ・ワト・ボマ ナイロビ、ケニア

アムリタ職業訓練センターはジャムシティ近郊のスラムに住む人々用に開設され、35台のコンピューターが設置されています。センターで開催した最初のコースには、学校を中退せざるを得なかった若者50人が、コンピューターの基礎の訓練を受けました。センターは訓練を受ける場所だけでなく、参加者の第2の家のようになりつつあります。

地区別の住宅プロジェクト一覧

ラジャスターン州	Sanghaneer, Jaipur
ウッタルプラデーシュ州	Telibagh (Lucknow-New Brindavan Yojana Dt.); Koraon (Mirzapur Dt.); Pratap Nagar (Ghaziabad Dt.)
マディヤプラデーシュ州	Piplani, near SOS Village (Bhopal Dt.)
グジャラート州	Dagara, Mokhana & Modsar (Bhuj, Kutch Dt.)
マラーシュトラ州	Ajanta Nagar (PCMC, Pune Dt.)
西ベンガル州	Puljour Amaravathi & Bidhan Nagar (Durgapur Dt.) Panihatti (Kolkata Dt.)
アンドラプラデーシュ州	Gudimalkapur (Medipatnam, Hyderabad Dt.) Filim Nagar (Jubilee Hills, Hyderabad Dt.) Amrita Nagar (Pradhatur, Cuddapah Dt.)
オリッサ州	Baleshwar, Bhubaneshwar
ポンディチェリ州	near Deepak Cables, Pondicherry Taluk
カルナータカ州	Hirisave (C.R. Pattana, Hassan Dt.); Mulki (Mangalore Dt.); Hosahalli (Mandya Dt.); Madhuvanahalli (K.R. Taluk, Mysore Dt.); Gandhi Nagar (Mysore Dt.); Gokulam (Mysore Dt.)
タミルナードゥ州	Amritapuram (Rameshwaram, Ramanathapuram Dt.) Panagudi (Rosmiyapuram, Valliyoor, Tirunelveli Dt.) Amirpalayam (Sattur, Virdunagar Dt.) Scavanchers Colony (Sivakasi, Virdunagar Dt.) Aruppukkottai (Virdunagar Dt.) Kollencode, Kaliyakavila, Marthandam, Kuzhitturai, Kulachel & Kanyakumari (all in Kanyakumari Dt.) Ettimadai, Nallampalayam & Madukkarai (all in Coimbatore Dt.), Arikkamedu & Vellanur, Ambathur, Avadi, & Maduravoyal (all in Tiruvallur Dt.) Karikattukupam, Ernavur & Kovalam (all in Chennai) Ramabelur, Pinjumedu, Satyamangalam, (all in Erode Dt.) Kumbakonam
ケーララ州	Thousands of individual houses spread throughout the districts of Alappuzha, Ernakulam, Idukki, Kannur, Kasargode, Kollam, Kottayam, Kozhikode, Malappuram, Palakkad, Pathanamthitta, Trissur, Trivandrum and Wayanad. Village colonies in the cities of Trivandrum (Airport Colony) and Kochi (Ambulungal)

津波生存者のための住宅6,296戸

ケーララ州	Villages and individual houses in the districts of Ernakulam, Alappuzha and Kollam
タミルナードゥ州	Villages in Cuddalore, Kanyakumari & Nagappatinam Districts
ボンディチェリ州	Kairakal
アンドマーン諸島	Bamboo Flat and Austinabad, South Andaman
スリランカ	Thekkawatta (Kalutara District, Western Province) Periyaniilavanai (Ampara District, Eastern Province)



地域社会への 支援



夫を失った女性5万5千人以上、および
貧困や障害に苦しむ人に生涯年金（インド全域）
高齢者のためのケアホーム
貧しい人への結婚式援助
奉仕活動を軸とした国際的な青年の活動
兵士、服役者、一般人に向けた無料の瞑想コース



高齢者のための ケアホーム

身を寄せる場所がないために、あるいは人生の最後を静かで霊的な環境で過ごしたいと、高齢者はアンマのケアホームへやってきます。このケアホームには家庭的な雰囲気があり、入居者は定期的にホームの活動に参加しています。



ケアホームは、タミルナードゥ州シヴァカーシー、ケーララ州コッタヤム(エイムズ病院)、カルナータカ州のバンガロールとカルワールにあります。いずれのホームにも礼拝堂や、文化プログラムなどの交流会が設けられ、近隣の人々や友人たちも参加しています。

病院慰問 および介護

エンブレイシング・ザ・ワールド(ETW)のボランティアは、世界各地の病院、介護施設、高齢者のケアホーム、自宅療養者の家を訪問します。また、重い病と闘っている人たちに励ましの手紙を書いています。





結婚式の 援助

インドでは、家族全体の安定のために結婚が重要です。貧困家庭の要望に応え、アンマは何十年もの間、貧しいカップルのための結婚식을援助し、花嫁の着るサリーと金の装飾品など伝統的儀式のために必要なものをすべて、エンブレイシング・ザ・ワールド(ETW)が用意してきました。2004年のインド洋津波以降は、被災により困窮したカップル数百組のためにも式を挙げています。

囚人の福祉プロジェクト

北米では、エンブレイシング・ザ・ワールドが「愛の輪」と呼ばれる活動を運営し、ボランティアは禁固刑に服役している人びとに希望と慰めの手紙を書いています。アンマの教えについて書かれた本も無償で服役者と刑務所の図書室に送られています。最近の活動は18州におよんでいます。依頼があれば服役者は、アンマの簡単なマールーム瞑想をEメールで教えてもらえます。MAセンターは少年や成人の矯正施設でアンマのインテグレートッド・アムリタ・メディテーション(アイアム瞑想)を教えはじめました。

アムリタ・ニラヤラム 女性寮

トリシュール、ケーララ州

この寮はETWの所有、運営で、行政機関や私立機関で働く女性、学生、旅行者など、女性100人に静かな環境の安全な住居を提供しています。





ナイロビのスラム街で掃除を行うケニアのボランティアと近所の子供たち



アメリカでのボランティアによるマザーズ・キッチン活動

アムリタ青年グループの活動



AYUDH＝アユダ（www.ayudh.org）は、青年が普遍的な価値観を日々の生活に生かしていくように支え励ましていく若者自身の運動です。まず自分自身から始めながら、霊性の原理への意識を忘れずに、希望、平和、社会とのよい関わり方がある未来をつくる支援をしたいと考えています。AYUDHはアムリタ・ユヴァ・ダルマダーラの略で、サンスクリット語で「ダルマ（道義）の輪を維持する若者」という意味です。AYUDHはまたサンスクリット語で「平和」も意味します。

1985年の発足以来、AYUDHは青年のプロジェクトをインド、アフリカ、ヨーロッパ、アメリカ、オーストラリア、日本で始めています。高齢者、ホームレス、身障者への奉仕、またスラムでの生活を経験するといった社会奉仕活動も活動の一部です。

AYUDHはチャリティコンサートと環境保護活動も行っています。年に一度の青年リトリートは文化交流の減多にない機会をつくります。講話や話し合い、霊性修行、表現のワークショップを通して、若者たちはそれぞれの可能性を探り、高め、表現しながら、社会で活躍できる一員となります。ヨーロッパでは、多くのAYUDHの活動やキャンプが「教育と文化のためのユース・イン・アクション欧州委員会」の後援を受けています。インドでは、AYUDHはABCプログラムに大きく関わっており、公共地域の清掃、公衆衛生と自然保護についての啓発を行っています。

ムンバイのスラム地区では、毎週子供向けの教室を開いています。毎週日曜日には、ボランティアの若者たちが80人程の子供たちに無料で食料を配ります。またMAMデリー支部では、貧しい人びとに毛布と衣服を無償で渡しています。「よみがえる自然一ひとつの種から（Growin' - One Seed at a Time）」は、若者が自らの食料を自らの手で育てることを勧める、AYUDHの国際的環境活動です。（www.ayudh.org/growin）

一般に公開された 瞑想

アイアム瞑想—インテグレートッド・ アムリタ・メディテーション・テクニク®

アイアム瞑想—インテグレートッド・アムリタ・メディテーション・テクニク®はアンマによって体系づけられた、生きる充足感を得る助けとなる、非常に効果的な瞑想技法です。

2010年に発表された五年間に渡る調査 (Evidence-based Complementary & Alternative Medicine) からは、アイアム瞑想を行っている者には、アドレナリンとコルチゾール(ストレスを誘発するホルモン)の減少が見られ、抵抗力についても効果が確かめられています。エンブレッシング・ザ・ワールドのボランティアたちが、無料でこの技法を世界各地で教えています。個人だけではなく企業や大学、矯正施設も対象になっています。

最近ではインド準軍組織の兵士130万人に当技法を教えるという大規模プロジェクトに着手しました。2008年には、国境監視隊(パキスタン、アフガニスタン、チベット、中国、ネパール、ブータン、ミャンマーとの国境線に待機)、中央産業保安隊、サシヤストラ・シーマ・パール、中央駐在警察隊、インド・チベット国境隊などでコースが開かれました。インド陸軍、海軍の兵士にもクラスがもたれています。



霊性の叡智は人類が当然与えられるべきものの
だから、瞑想コースに料金とは赤ん坊に母乳代を
請求するようなもの、とアンマは言います。

それでアンマの瞑想技法は
常に無料で教えられています。



アイアム瞑想クラス、インド準軍兵士、タミルナドゥ州



企業を対象にしたアイアム瞑想クラス、アメリカ



アイアム瞑想を行うアムリタ大学の学生



生涯年金 アムリタ・ニディ

1998年、エンブレイシング・ザ・ワールドは、インド全域で困窮した女性5万人を助けるという、生涯年金プロジェクト、アムリタ・ニディを開始しました。2006年には対象者を男女に広げ、そこに子供も含みました。最終的には生活が困難な子供を含む男女100万人に月ぎめで年金を支払う予定です。

生活の不自由、働き手がいらないといった状況は、次々発展していく社会では生涯に渡る困難になると考え、この年金には満期が設けられていません。終身給付となっています。



種の配布

2006年にエンブレイシング・ザ・ワールドは、コッラム周辺に住む人々に家庭菜園を勧める、「有機菜園プロジェクト」を開始しました。種は5,000家族に配られました。種を購入できないような貧しい家庭にも、アンマの祝福を受けた種が配られます。

毎月の年金の給付



配布される種を祝福するアンマ





子供のための ケアホーム

ケララ州、バリッパリー孤児院：500人の児童のための孤児院
児童たちは音楽、運動競技、ダンスの分野で頻繁に賞を獲得
3人に1人以上が大学の学位取得を目指す

ナイロビ：ケニア各地の貧しい地域から
子供を引き受けるケアホーム



アムリタプリにて、アンマとアムリタ・ニケータンの子供たち



伝統的寺院音楽を演奏する子供たち



アムリタ・ニケータンでは、伝統的に男子に限られていた
芸能に女子も関わることを奨励しています

アムリタ・ニケータン 孤児院

パリッパリー、ケーララ州

1989年、アンマは所有者が破産した孤児院と学校を引き取りました。子供たちは放置に近く、栄養状態もひどく、建物は荒廃しきっていました。エンブレッシング・ザ・ワールド(ETW)はただちに子供たちの世話を開始、孤児院の建物を再建し、学校を再開しました。

現在、アムリタ・ニケータンには500人の子供がいます。その内半数は、貧しい少数民族のコミュニティから来ています。栄養豊かな食事、アムリタ・ニケータンの献身的なスタッフの愛情に満ちた世話と励ましを受け、子供たちは生きていく自信とたくましさを身につけました。



孤児院の日課

学校が休みになると、多くの子供たちがアンマのアシュラム(アムリタプリ)を訪れます。アンマとの強い絆を培った子供たちは、アンマが本当の自分のお母さんのようだと言います。

子供達は音楽、スポーツ、舞踏に秀でています。彼らは、ケーララ州の伝統的寺院音楽であるパンチャヴァディヤムの演奏でその名を知られています。パンチャヴァディヤムは普通少年だけに教えられる芸能ですが、孤児院では少女もこの芸能の習得を奨励されています。

子供達はヴィーナ、タブラといった楽器とともに、クーディヤットム、プーラッカリ、コルカリなどの伝統舞踏劇も学びます。地域のコンテストで、子供たちはよく最優秀賞を獲得します。

子供たちは孤児院に隣接しているアムリタ・サンスクリット語小中高校に通学します。35%以上の孤児たちは高卒後さらに進学し、教育費はETWが負担します。



この子たちは私たちの誇りです:
アムリタニケートンの子供たちは、
サンスクリット、音楽、運動、ダンスの分野で
頻繁に賞を獲得します。
そして3人に1人以上が
大学の学位取得を目指しています。





ケニアの訪問中に、アンマは子どもたちに新調の衣服一式と学用品を贈りました

アムリタ・ワトト・ボマ 孤児と恵まれない子供たちの ケアホーム



アンマから新しい服と文房具を受け取る、
ケニアの子供

2009年4月にアンマがナイロビを訪れた際に、アンマは108人の子たちを受け入れるケアホーム、アムリタ・ワトト・ボマを公式に開きました。工事は始まったばかりでケアホームは2011年まで開かないと思われましたが、ケニアの子供たちに約束するかのよう、アンマは現地訪問中に54人の子供たちにそれぞれ会い、新しい服一式と文房具を贈り、奨学金の給付をはじめました。

アティ川の岸辺に広がる11エーカーの土地に、アムリタ・ワトト・ボマは宿舎、食事、教育、保健医療を心のこもった環境で提供し、ETWのボランティアが管

理運営にあたります。

ケアホームの完成時には寮、教室、運動場、競技施設、医療クリニックが併設されます。態勢が整った際にホームは7歳から10歳の子を受け入れます。孤児あるいは、最貧困層で養育が難しい家庭の子供たちはケニアの各地から、行政担当者、ソーシャルワーカー、教会の牧師の協力を得て照会された上で入所します。



アムリタ・ワト・ボマの子どもたち



アムリタ・ワト・ボマの敷地内の様子



2011年4月にアンマがナイロビを訪れた際に、ケニア共和国の副大統領カロンゾ・ムシヨカ氏がアムリタ・ワト・ボマ孤児ケアホームの開場式に参加しました。ケアホームの建設はETWケニア支部、ケニア・マーター・アムリタ・ナンダマイ・マート・チャリタブル・トラストが手がけました。アムリタ・ワト・ボマは、ケニア政府に正式な児童ケアホームとして登録されました。初めに50人の子どもたちが、ケアホームで生活をしています。





公衆衛生

公衆衛生の向上およびインドの自然の美しさの回復
公共の場の清掃、公衆トイレの設置
適切なゴミの処理方法についての学びを広める
既に1,000ヵ所以上で清掃活動を実施
生徒100万人にハンカチの配布



アマラ・バーラタム・キャンペーン 清潔なインド、美しいインド

アマラ・バーラタム・キャンペーン(ABC)は、公衆衛生の向上とインドの環境の美しさを取り戻すためのプログラムです。このキャンペーンを通して、アンマはインド国民全員に、インド公共の場の清掃、衛生状態の向上による健康増進、ゴミの仕分け、リサイクル、ごみの適切な処理をする実用的な新たな取り組みに加わるよう呼びかけました。キャンペーンは、ゴミを散らかすことや唾の吐き捨てや排尿を、公共の場でやめること、環境美化への啓蒙も含みます。このキャンペーンはインドの全ての言語、全ての州で行われており、全国で数百万人が参加しています。

ABCを通して、ボランティアは公共の場を清掃し、公衆トイレを設置し、ゴミの捨て方についての教育を学校で実施します。キャンペーンが最初に発動されたケーララでは、清掃活動はすべての主要な街、都市で実施されました。キャンペーンは既に、インド全土に広がっています。ニューデリーでは、ニューデリー州首相シーラー・ディークシト氏、首相主席補佐官、農業組合大臣などを含む数名の政府高官が、個人的にこの清掃活動に加わりました。

エンブレッシング・ザ・ワールド(ETW)は、100万人を超える学校へ通う生徒たちへの、ハンカチの配布も実施しています。生徒たちへは、地面へ唾を吐くのではなくハンカチを使うように呼びかけています。



100万人の生徒にハンカチを配布するアンマのキャンペーンに参加する、気候変動に関わる政府間パネル(ICPP)議長のラジェンドラ・パチャウリ氏。



公衆衛生の全国的な取り組みの第一歩 環境美化の啓蒙キャンペーン

清掃活動の実施は、すでに1,000回以上にのぼっています。第4日曜日がグリーンサンデーの名で、毎月この日に清掃活動が行われます。キャンペーンは最終的にインド全域に広まることを意図しています。アンマは市民たちに、小さな委員会を作り、それぞれが2キロ範囲の地域を担当するよう呼びかけています。「そうした委員会の連鎖がほんとうに大規模な変革を起こせる」アンマはこうのように説明しています。「これらの委員会は、担当区域のいくつかの地点に、空き缶やゴミを道端に捨てたりつばを吐いたりしないように、という標識を啓示して維持するようにすること。ゴミは定期的に回収し、適切に処理することです」

アンマはまた、州政府および地元自治体の支援と協力があれば、インド全域の公立学校と道ごとにトイレとゴミ箱を設置する任務を請け負ってもよいと発表しました。

アンマはまた、インドの全市民に、大地は人類の母であり、それをきれいにすることは神を敬うことなのだという精神を認識すること、そして環境美化と公衆衛生を実現するために、献身的に働くことを呼びかけています。この呼びかけは、インド全土に渡って、100万人以上の人々に誓われています。



アマラ・バーラタム・キャンペーンはインドの公衆衛生の目標に力強い影響を与える可能性を秘めています。公衆衛生の欠如は、世界的に、伝染病の主な原因となっています。



すべての人に 教育を



貧窮した農村の子供たちのための
10万件の奨学金
聴覚困難、知的障害の児童のための特殊学校
インドの先住部族民に向けた
識字教育と職業訓練(受賞プロジェクト)



聴覚に障害を持つ生徒によるダンスの披露



アムリタ・発話・聴力開発学校



発話の訓練をするASHISの生徒たち



部族の子供たちのための放課後の補習授業

アムリタ・発話・聴力 開発学校 (ASHIS)

トリシュール、ケーララ州

アムリタ・発話・聴力開発学校 (ASHIS) は、聴力障害のある児童に、科学的手法で発話を教えています。120名以上の生徒が在籍し、男女ともに寮が用意されています。発話と聴力の障害からくる、あらゆる制約を乗り越えようと、生徒たちは懸命に努力をつづけています。中等課程の修了証書を得る試験では、100%の合格率を出し、就職でもよい結果を積んでいます。舞踊や芸術、手工芸にも積極的です。

部族民のための プロジェクト

アッタツパディ、ケーララ州 イドウッキ、ケーララ州

アッタツパディの僻地で、エンブレイシング・ザ・ワールド (ETW) は、部族の人びとが非公式の学校を設立するのを助けています。3校がすでに完成しています。

ETWはイドウッキで、部族の子供たちの補習学校をいくつも建ててきました。こうした子供たちの親は文盲で、親の手助けがないため、第3課程以降の学習中断率が高くなっています。ETWのセンターでは、補習授業を設けて、彼らが必要な援助を受けられるようにしています。



危機にある 農家の子供たちへ 10万件の奨学金

ここ数年、借金と不作に苦しむ農民の間で、自殺が疫病の伝染のように多発しています。1997年以降、20万以上の農民が自殺をはかったと言われています。自分たちや子供たちに未来がないと感じた、家族全員の心中もたびたび起きています。

2007年に、マハーラシュトラ州はインドで最も高い農民自殺率を記録しました。当時、州首相だったシュリ・ヴィラスラオ・デーシュムック氏はアンマに相談しました。アンマの解決策はヴィディヤアムリタムでした。ヴィディヤアムリタムと名づけられたプロジェクトは、農民自殺に悩む地域の子供たちに奨学金を給付する制度です。4年経った今、デーシュムック氏はこのようにコメントしています：“アンマは農民たちに新たな希望を与えました。”

貧困層農家の子供10万人に奨学金を給付することにより、エンブレインシング・ザ・ワールドは、家族が暮らしていくのに頼ることのできる、よりしっかりとした経済的な基盤ができることを狙っています。ヴィディヤアムリタムと名づけられたこのプロジェクトによって、マハーラシュトラ、アーンドラ・プラデーシュ、カルナータカおよびケーララの各州より3万7千人の生徒たちがすでに給付金を受け取っています。受益者の多くは片親か両親を自殺で失った子供たちです。この子たち（10～15歳）は成績に応じて、教育を修了するまで毎月の給付金を受けとります。ヴィディヤアムリタムは卒業生の奨学資格を新しい生徒が譲り受ける形をとり、ETWの継続的な人道的事業となっています。

ETWはこのプロジェクトの一環で、ヴィディヤアムリタム奨学生に向けたキャンプとプログラムを実施しています。善い価値観と自立の意識を学ばせる目的です。2009年9月も、ETWの本部であるケーララ州アムリタプリーで、一万人のヴィディヤアムリタム奨学生を迎えて同種のプログラムが開かれ、特別選抜教育キャンプと環境保護に関するシンポジウムも行われました。アンマはまた、農家の子供に、エイムズ病院（コーチ）の職を用意しました。2009年この奨学金プログラムは、エイズに感染した子供についても対象の枠を広げました。

自殺が多発したワシム地域での奨学金給付



学校へ行くバスを待つ、奨学金を受け取っている子供たち





アマリタ・サンスクリット小中高等学校、ケーララ州



アッタッパディの部族の子供たちのクラス
ケーララ州

アマリタ・サンスクリット 小中高等学校

コッラム、ケーララ州

3,500人の生徒を抱える、アマリタ・サンスクリット小中高等学校は、インドの文化的伝統を伝える言葉であるサンスクリット語を教える学校としては、ケーララ州最大です。当校はアマリタ大学との衛星通信を用いて、E-ラーニング情報センターを開設しました。これにより大学各キャンパスの講師によるビデオ会議形式の講義が受けられます。この施設は学校の授業後と日曜日に開放され、学生、教師、一般人にも幅広く利用されています。

パリッパリーにある、ETWの孤児院であるアマリタニケータンの子供たちも、隣接のアマリタ・サンスクリット小中高等学校に進学し、孤児であっても質の高い教育を受けることができます。孤児たちの3人に1人以上が、大学の学位の取得を目指しています。

異なった能力を持つ 子供たちの学校

コリコード、ケーララ州

2009年12月、ETWIは障害のある子どもたちのための新しい教育施設を創立しました(AIDA)。精神障害をもつ子どもたちの福祉をはかる目的です。第一段階としてデイケアセンターが開かれ、20名の子どもたちを受け入れました。

日常生活を送るスキル、早期からはじめる社会との関わり、教科の学習とともに、しっかりとした機能開発セラピーが用意されています。それぞれの精神的、肉体的な障害にもとづいた個別のセラピーを受けることができます。これらのプログラムによって基本的な生活のためのスキルと考え方を教え、子どもたちが日々の生活でより自立していけるよう支援します。

受賞プロジェクト

成人教育

イドゥッキ、ケーララ州 シヴァカーシー、タミルナードゥ州

基本的な生活基盤にも事欠く南インド遠隔地の先住民族に、成人教育を施そうとする際に生じる、独自の諸問題に最善の対処をすべく、MAM(マーター・アムリターナンドマイー・マート/エンブレ・シング・ザ・ワールドのインドを基盤にするNGO)は、政府の成人教育助成プログラム(JSS)を通してインド政府と協働しています。インド政府は、JSSを通して、成人教育に携わるインド中のNGOに資金援助をしています。国際識字能力ミッション(National Literacy Mission :NLM)と連携するユネスコの提言により、JSSは政府の助成を受けています。2008年、ETWのシヴァカーシー・プログラム(タミルナードゥ州)は、インドでJSS資金を最も効果的、効率的に運用しているとしてユネスコ・NLM賞を受賞しました。JSS資金を利用し、ETWは、イドゥッキ(ケーララ州)、シヴァカーシー(タミルナードゥ州)の最も貧しい部族民のための、読み書きと職業訓練のプログラムを行っています。ETWは、キャンドル作りからコンピューター・サイエンスまで、多様で幅広い100以上の職業訓練コースを提供しています。訓練を修了した者には、生産した商品をどのように包装し、売り込み、商品に見合った販売所に卸せばいいのかについて学ぶための支援をします。ETWはまた、参加者に「未来への支払い」として、自分たちの地域社会へのボランティアを促しています。たとえば、ETWの学校制服を仕立てるプログラムの参加者は、常に最初に仕立てた制服を、制服を買うことができない子どもに寄付します。参加者はまた近隣の人々、友人、家族へ読み書きを教えに行きます。また、ETWの自殺を防止するためのプログラムでボランティアをします。ETWのボランティアの支援で職業訓練が完了したのちは、カウンセラーがそれぞれの村を一戸一戸訪ね、ケーララ州の自殺と麻薬乱用率の上昇を抑えるために働きかけています。また、毎年、プログラムのスタッフと学生たちはともに働き、乾燥食品1,000セットをお年寄りとホームレス、身よりのない人々に分配しています。

イドゥッキの部族地区での識字教育

自分たちでビジネスを始めた、
パリバダム(インドの伝統的な食品)の
製造方法を訓練された部族の女性たち





産業訓練センター

カルナガッパリー、ケーララ州

エンブレッシング・ザ・ワールドの産業訓練センター(ITC)は1989年に開校し、500人の青年に対して11種の産業技術訓練を実施しています。多種多様に渡る作業環境、あるいは自立自営で、自分たちの技術を活かしていくことができるよう、センターでは彼らが独立心をはぐくみ、青年らしい自信をもっていけるよう努め、工夫しています。卒業率は80パーセント超で、雇用者側からも高い評価を受けています。2001年と2005年には2つの職種で、生徒が全国技術テストで一等を獲得しました。

インド洋津波の後にアンマは門戸を広く開放し、被災後の生活再建の支援として地元の青年数100人を無償で受け入れました。



教育の均等は、根強い貧困をなくす最も効果的な手段であることがわかっています。個人レベルでも貧困に落ちいらないようにする最も持続性のある予防策であることが確かめられています。身体障害者から、学校を卒業していない成人、教育費を用意してもらえない子供まで、ETWIは、教育を望む誰もが学校へ通えるように活動しています。



伝統工芸の継承 アムリタ・シルパ・カラクシェートラ

2009年6月に、アムリタ大学はインドの文化遺産を維持継承する支援の一環として、木彫の伝統工芸を振興させる機関を立ち上げました。才能のある職人の育成を通じて、インド各種伝統工芸を維持継承する職人育成のモデル校となることを目指しています。



課程は最近の工芸産業界を悩ませている問題を解決できるように設定され、質の水準をあげながら生産性も高めるために、現代的な機械による彫刻技術も取りこんでいます。交渉の仕方や、金融機関との関わり方についても教育します。資質を備えた生徒を選び、次の5年間で1,000人を養成します。6ヶ月と30日のコースがあります。それぞれの生徒は訓練を受けながら、期間中の生活費にあてる手当を毎月受け取ります。当校はエンブレッシング・ザ・ワールドの女性自立支援グループとも協働しています。

全国の大学生に 無料のインターネット授業を

アムリタ大学のEラーニング研究室は、インターネット教育の分野で先駆的な取り組みを進めています。全国の大学生に無料のインターネット授業を、というプログラムです。オンライン・プログラムは、インド政府の人材開発省による全国的な教育に関する取り組みからの資金提供により、IT技術を用いて開発されてきました。アンケート調査によると、大学生たちは専門分野に就職する機会を学ぶことや、ソフト・スキルを磨くことに高い興味が有ると分かりました。これを受け、アムリタEラーニング研究室は、就職の機会の情報を提供する無料インターネット授業を開始することに決定しました。後ほど、ほかの科目も追加されます。授業は、アムリタ大学のアムリタ・Eラーニング研究室で開発された、受賞したEラーニング・プラットフォーム、A-VIEW (AMRITA VIRTUAL INTERACTIVE E-LEARNING WORLD) から放送されます。



よりよい世界の ための研究



地滑り早期発見のための世界初のワイヤレスセンサーネットワークシステム

遠隔地で職業訓練を可能にするバーチャルリアリティシステム

衛生による遠隔医療ネットワーク

最先端のコストパフォーマンスの高い、自動化されたバイオメディカルデバイス

バーチャル実験室、遠距離教育、そして

最先端の教育技術



アムリタ地滑り探知システムが表層土の状態をモニターし、地滑りが迫るとアラームを送る。 ムンナー、ケーララ州

アムリタ大学の研究者は、専門性の高い、そして広い分野で新天地を切り開いています。分野はナノテクノロジー、バイオテクノロジー、ロボット工学、衛星通信を利用するソフトウェア開発と、多様におよんでいます。危機に瀕した地域社会や個人に効果的で目的のしぼった援助を行うために現代テクノロジーの力を活用するという目的は一つです。

人道的援助のための ワイヤレス・テクノロジー

ワイヤレスネットワーク、およびアプリケーションのセンター(AmritaWNA)は、災害管理のための包括的な解決策、農村の住民のための優れた医療技術、スマートエネルギー分配システム、環境モニタリングシステムの開発、監視とセキュリティのための低コストかつ正確なサイバーセキュリティシステム、そして貧困者のための教育技術などの分野で、最先端の研究プログラムを提供しています。

2009年、アムリタ大学の研究者たちは、世界ではじめて地滑りを探知する無線のセンサーネットワークシステムを配置しました。システムは、深刻な地滑りが起きやすい地域であるケーララ州のムンナーに設置されました。このシステムは、無線探知技術を利用し、地滑りが起こる兆しを事前に知らせ、早期避難と災害に対する対応を可能にします。

センターは、次のような機能を持つ無線ロボットも開発しています。

救助活動の分野: 監視、災害者援助、老人の介護

医療の分野: 遠隔地にいる患者のリアルタイム監視や診断を可能にする着用無線医療センサー

環境保護の分野: 水質、水の無駄使い、空気、土壌の質、気候変動などの監視

エネルギーの分野: 無駄使いを減らすスマート送電線、エネルギーの窃盗の監視、電線故障の探知、自動管理、通知、請求

教育の分野また、適切な手段の不足している学生や研究者のための遠隔バーチャル無線研究室の提供と向上につとめています。



AMMACHI研究室で開発された
触覚学に基づく職業訓練のための器械



SAVEはマルチメディア教育用アプリを開発し、
より有効的に学ぶことを可能にしています



無職の女性たちが、コンピューターを使った
配管工事の訓練に参加、イドゥッキ、ケーララ州

すべての人に コンピューターとの対話を

マルチメディア、バーチャル・リアリティ、および触覚学は、医療シミュレーションや職業訓練などの教育の分野を大きく進化させる可能性があります。アムリタ大学のAMMACHI(アマチ)研究室(Amrita Multi-Modal Applications Using Computer-Human Interaction)では、コンピューターと人間の対話手法の最先端研究が行われています。ここでは、恵まれない人々のためのアプリケーションを開発しています。

アマチ研究室のセーブ・プロジェクト(SAVE)の目的は、貧困の軽減を助ける職業訓練の技術革新を促進することと同時に、伝統的な技術を守ることです。一部の支援金はインド政府の人事省から提供されています。SAVEでは、マルチメディア、バーチャル・リアリティ、および触覚学を利用して、教育に役立つアプリケーションが開発されました。現実に近いシミュレーションで、移動可能、低コストかつ拡張性のある職業訓練が可能になりました。

支援金の一部を国連の民主主義基金から提供されている別のプロジェクトでは、アマチ研究室は、SAVEのコンピュータ化された大学認定の職業教育および訓練を活用し、3,000人の恵まれない女性の自立支援を進めています。

アマチ研究室のモバイル職業訓練プロジェクト(MoVE)は、太陽発電を利用した車を遠隔地や部族民が暮らす地域に送り、持続可能な開発を教える職業訓練を提供しています。



A-VIEWは離れた場所にいる教授の講義を受講することを可能にします



2011年世界教育サミットでA-VIEWが受賞

すべての場所に教育を A-VIEW通信教育

2003年、住んでいる地域に教師が不足している学生のグループが、アンマに相談にきました。アンマは、テクノロジーの力で解決できるのではないかと提案しました。2004年に、アムリタ大学Eラーニング研究室が立ち上げられました。

2009年に、インド元大統領のAPJ・アブドゥール・カラム博士が、A-VIEW (Amrita Virtual Interactive E-Learning World) を正式に発足しました。A-VIEWは、インド政府人材開発省の支援金と、アムリタ大学のETWの研究者たちによって開発されました。A-VIEWは、インターネットと衛星放送を使って教師と様々な離れた場所にいる生徒を結ぶ技術です。生徒はチャット、ホワイトボード、そして質問ボタンなどを利用して教師とコミュニケーションが取れます。

A-VIEWは、大規模な教師養成講座にも利用されているため、全体の教育のレベルを上げる機能も持っています。いつでも、どこでも講義にアクセスすることができるため、生放送の授業に参加できなかった生徒も、後から見るができます。A-VIEWがインド中の大学から、無料でアクセス可能になることを目指しています。

2011年に、A-VIEWはニューデリーで開催された世界教育サミットで、通信教育のベスト開発の審査員賞を受賞しました。



多様な分野にまたがりながら、ETWのリサーチ・プロジェクトは、一つのゴールをともに目指しています。それは地域社会や個人が危機に瀕した際に、現代テクノロジーの力を効果的に利用することです。



バーチャル研究室

高額な予算で研究室を運営する民間企業とは対照的に、教育機関は資金不足に悩まされています。この差を縮小させるため、アムリタ大学のVALUEプロジェクト(Virtual and Accessible Laboratories Universalizing Education、教育を一般化するバーチャルかつ便利な研究室)は、最先端のコンピューターシミュレーション技術を開発しています。バーチャル研究室は、リアルな科学研究室の環境を再現します。インド政府人材開発省の支援金のおかげで、VALUEは生物工学、機械工学、科学、物理等の分野で先駆的なバーチャル

ル研究室を開発しています。情報がインターネットにのっているため、高品質な教育材料に、世界中のどこからでもアクセスすることが可能です。一流大学に通う生徒と異なり、低所得の家庭の生徒の大半が資金不足の大学に通っているため、教育に差が出ています。VALUEのバーチャル研究室はこの差をなくすことを目指しています。

教育の技術

CREATE(the Centre for Research in Advanced Technologies for Education、教育の先進技術研究センター)のゴールは、個別学習、適応性のある評価、オンライン科学研究所、モバイル学習、卓上の技術、そしてコンピューター支援言語の学習等に役立つ低コストな技術の開発です。子どものための社会および教育システムは、知識と共に創造性と道徳観も育まれるように設計されています。インド初のこのコンピューターを利用した学習プログラムは、農村地方の子ども2万7千人以上に利用されています。CREATEは、都市と地方に住む数百人の女性にも、無料でコンピューターを利用した教育ソフトの使い方を教えました。



CREATEは下記の一流研究組織と共同研究を行っています。:

インド工科大学、C-DAC、カーネギー・メロン大学、カリフォルニア大学バークリー校、HP世界社会革新、インテル、オラクル

更に、インド政府によるIT技術を利用した教育への全国的な取り組みから、研究助成金を提供されています。



インシュリンポンプの使用、エイムズ病院

低コストの 糖尿病を管理する 生物医学の装置

糖尿病を患うインド人の治療費は家計所得の25%まで上ります。増加する糖尿病に対し、アムリタ大学生命工学学部ETWの研究員が、クオリティが高く低コストかつ、精密で個別に対応可能な最先端の治療装置の普及に向けて、研究を進めています。現在、インド初の国内製自動インシュリンポンプとグルコースセンサーが開発されています(米国特許#8,034,019 B2、2011年10月)。この装置は、簡単かつ低コストの血糖値の監視と調節を可能にします。

アムリタ大学の研究開発部長 サイエンティスト・オブ・ザ・イヤーを 受賞

2011年2月28日ニューデリーにて、アムリタ大学研究開発部長シャーンティクマール・ナイア博士が、由緒ある全国研究賞を科学技術省より受賞し、アムリタ大学の足跡に顕著な功績を残しました。この賞は毎年一名の科学者に贈られますが、今年はナイア博士のナノサイエンス、ナノ技術の先端分野での貢献が認められました。授賞を行ったのはC.N.R.ラオ教授(先進科学開発のためのジャワハルラル・ネルー・センター名誉総裁、インド首相の科学アドバイザー)。ナイア博士は太陽光電池へのナノ技術応用に関する研究で実績を積み上げ始めた、ナノサイエンスのためのアムリタセンターの所長も務めています。





外科手術の様子、エイムズ病院



MRIスキャン、エイムズ病院

メディカルリサーチ

エイムズ病院は、インド医療研究協議会、科学技術局、医学およびホメオパシーに関する国内研究機関、その他の全国的、国際的な研究機関の支援を受け、プロジェクトに関する広範囲な研究能力を保持しています。

生体統計学研究所

この研究所は、エイムズ病院の医師や教授および研究者や学生が、データ分析や結果の解析を行うのをサポートします。分析の技法に関する最新の情報を伝えるワークショップやセミナーも開催されています。

ナノ技術と分子医学のためのアムリタセンター(ACNS)

ナノ技術と分子医学のためのアムリタセンター(the Centre for Nanosciences and Molecular Medicine= ACNS)での研究は、分子医学と臨床研究を織り交ぜて進められます。研究は、病気の分子レベルでの理解、癌や感染症へのナノ・メディシンの利用、再生移植のナノ技術の向上などにおいて進められています。インド政府によるナノ技術プログラムの、メディカル・バイオ・ナノテクノロジーおよび細胞組織技術分野のインドで初めてのセンターです。またこのセンターは、新・再生可能エネルギー省によって資金を提供されている、太陽電池とスーパーコンデンサーおよびバッテリーを組み合わせた装置を開発する主要な施設としての助成金も提供されています。



保健医療



220万人以上の患者への無償の診療
1998年以降6千万USドル(約60億円)以上の無償の診察
毎年100回以上の医療キャンプを実施し
遠隔地に最新鋭の技術を提供



エイムズ病院(AIMS) Amrita Institute of Medical Sciences

エイムズ病院 (www.aimshospital.org) は、あらゆる人々向けの慈愛の精神に基づき、高レベルかつ良心的な費用の医療を支払能力を問わずに人々に提供したいという、アンマの願いによって創設されました。エイムズ病院は人類への奉仕に特化し、困窮した人々に可能な限りの慈善診療を行うので、患者のほとんどが無料あるいは一部負担のみで治療を受けられます。

この病院は1300床、および付属の医大病院に500床のベッドを有し、51の医療部門、12の主要な専門医療センター、24の手術室、210床の集中治療室、240床の長期ケアを備えています。



患者の手当ては最新の臨床検査室とCT等の医療機器によって精度が高められています。コンピュータによって完全にネットワーク化された院内情報システム(HIS)が、内科医や外科医への迅速な診断結果の伝達を確かにしています。エイムズ病院には、大規模な救急救命サポートサービスもあります。

開院した1998年から2008年まで、エイムズおよび分院、クリニックは650万人以上の患者を迎えました。同期間に6千万USD(約60億円)相当の無償医療処置を提供しました。220万人以上の患者が完全無償の治療を受けました。

エイムズは、NABH、NAAC、NABL、ISO(病院と保険機関に関わる国家認定委員会)に正式認定された、初めての大学病院です。



小児集中治療室



糖尿病の管理

患者への配慮

エイムズ病院では静かで美しい環境のもと、慈愛あふれる高度な医療が施されます。エイムズは南アジアで第一級の病院の一つとして認められています。同院は、国際的な経験を積み、高い技能を身につけつつ、献身的な、多くの医療専門家を引きつけています。インド各地から、さらに世界各地から患者がエイムズを訪れています。

外来患者も幅広い内容の診療を、安い費用で受けることができます。専門をまたがった協議を行い、各患者への丁寧で良質な治療を確実にしていきます。

エイムズのホリスティック・メディスン・センターは現代の医薬にヨーガ、アーユルヴェーダ、ナチュロパシーを組み合わせ、さまざまな疾病に対し心身統合的な治療を施します。

スペシャル・アウトリーチ (出張プログラム)



口蓋欠損の手術前と後

糖尿病はケーララ州において生死に関わる主な病気の一つです。エイムズ病院の内分泌科では糖尿病についての意識を高めるため、アムリタ糖尿病福祉協会を設立し、貧しい患者には無料でインシュリンを提供しています。またこの協会は予防を啓蒙するための展示会や医療キャンプなどを定期的に開催しています。

さらに口蓋欠損は世界で四番目に多い奇形です。インドでは毎年3万5千人の乳児がこの状態で生まれます。頭部・頸部科では形成手術を施し、早期発見と治療のために無償の定期診断キャンプを行います。エイムズは2010年に貧しい患者のために口蓋欠損の手術を42件無償で行いました。



移動可能な遠隔医療装置



終末期疾患への緩和ケア

遠隔治療

2002年にエイムズ病院は、インド宇宙研究機関 (ISRO) との提携でケーララ州初の遠隔医療センターを設立しました。このセンターは、通信衛星によって医療情報をインド各地の地方のセンターから送信することができます。遠隔医療は、2004年のインド洋津波の際のMAMの救援活動において幅広く利用され、迅速な活動を支えました。2011年1月現在、センターはインド全土で40件の病院に利用されています。さらに、アムリタプリ、シャバリマラ、アンダマーン諸島にもセンターがあります。

エイムズ病院はさらに、移動可能な遠隔医療装置も備えています。都市バスと同じ大きさで、遠隔地でも精度の高い診療が可能になります。遠隔医療装置は2008年にMAMが行った洪水救援活動の際にも、ビハールまで列車によって輸送されました。2011年11月現在、遠隔医療装置は50万人もの患者の治療に活用されました。

2009年、エイムズ遠隔医療センターはインドの汎アフリカ遠隔医療ネットワークに参画しました。この遠隔医療ネットワークを通じて、エイムズ病院はベニン、ブルキナファソ、ガボン、ガンビア、ガーナ、エチオピア、モーリシャス、ナイジェリア、ルワンダ、セネガル、セイシェルでインターネットによる医療活動を実施します。このネットワークにより、これらのへき地の医療センターや病院で専門医による診察が実現します。

在宅 緩和ケア

1999年に開始された同科は、終末期疾患を抱えた貧しい患者に心のこもった診療と心理的援助を行います。医師は自宅にいる患者を訪ね、薬を渡し、家族の話を聞き、看護手当てについて指導を与えます。年間7万5千の患者が、無償でこの処置を受けています。



へき地の村での歯科と眼科のキャンプ

遠隔地での 無償診療キャンプ

エイムズ病院は、地方の貧困層の地域に毎年100回以上の無償診療キャンプを実施しています。眼科キャンプは白内障の検査をします。必要であるとされれば、患者は無償手術を受けるためにエイムズに送られます。エイムズは2010年に726人の患者に白内障手術を無償で行いました。

「エイムズ病院による移動医療援助」は、遠隔地にある部族の村に無償医療手当てを行います。村人たちは重い病気にかかっていないか検査を受け、無償で薬を受け取ります。必要な場合はエイムズ病院に照会されます。

「エイムズ災害救援チーム」は、2001年のグジャラート地震、2004年のインド洋津波、2005年のムンバイ洪水、2006年のチクングニャ（伝染病）の流行、2008年のビハール洪水、2009年の西ベンガル台風などの災害時に数百におよぶ医療キャンプを開いてきました。



遠隔医療通信によって診察を受ける患者



アンマの高度総合病院、エイムズがコーチにあっても、誰もがそこに出かけて行けるわけはありません。そこでETWは遠隔地に分院を開き、毎年100回以上の無料医療キャンプを実施しています。



地域医療部門

アムリタ医学校

この部門では、医師たちに実地経験と現場研修を重視した地域医療の技術を教えた上で、家族単位の保健教育を施します。エイムズから25キロ離れたニャーラッカルの農村部保健所、およびカルールの都市部保健所を運営しています。これらの保健所は毎日200人を迎え対応しています。

政府当局に対応して、同部門は、貧困家庭出身の母親から相談を受けて世話をするコミュニティの保健指導員を養成します。少数民族の村人200人に基礎看護の教育訓練をほどこして、自分の村で保健衛生を指導できるようにします。エイムズの学生も積極的に関わっています。彼らはさらに学校や大学で性と生殖に関する健康、HIVエイズ、ドラッグ、酒の飲みすぎなどについてのセミナーを開催しています。

農村部(ニャーラッカル)および都市部(カルール)の保健所での保健セミナーキャンプ





慈善病院、カルベッタ



慈善病院、アムリタプリ



慈善病院、パンパ



慈善病院、マイソール



エイムズ 慈善病院

カルベッタ、ケーララ州

患者の多くが少数部族のコミュニティに属しています。一日におよそ200人ほどが、外来を訪れます。エイムズとの遠隔医療接続も備えています。部族の人びとに対する厚い心遣いから、医師たちはジープでさらに離れた村落を巡回しています。

アムリタプリ、ケーララ州

当院は沿岸部8村の住民と、アムリタプリ一居住者および来訪者を無償で診察します。一万人近くの人びとが、患者として登録されています。アーシュラムの医師は、エイムズのコンサルタントの助けを得、エイムズとの遠隔医療接続もあります。

パンパ、ケーララ州

有名な、人里はなれた山の頂上に位置するシャバリマラの近くに24時間の無償診療体制をとっています。この病院はベッド25床を備え、巡礼に訪れる数万の人びとを対象に無償の手当てを行います。完全装備の救急車二台、15人からなる医療チーム(心臓専門医を含む)、エイムズとの遠隔医療接続をもっています。

マイソール、カルナータカ州

当病院は20床のベッドで、ボガディ地域の貧しい村人100人以上の必要に応じています。



エイズのケアセンター、トリヴァンドラム



エイズのケアセンター、トリヴァンドラム



癌ホスピス、ムンバイ

アムリタ・クリパ・サーガル HIV/AIDS ケアセンター

トリヴァンドラム、ケーララ州

ケーララ州のネドウマーンガードおよびティルヴァナンタプラムにあるアムリタ・クリパ・サーガルは、低所得のHIV患者のための地域ケアセンターです。このセンターは25床のベッドを有し、身体のリハビリ施設や外来診察も備えています。のどかな地方にあるこのセンターは、HIV/AIDS患者に総合的なリハビリを提供しています。医療ケアのほかに、心理的・社会的ケア、精神面でのカウンセリング、グループ・セラピー、在宅介護、患者の子どものための教育援助、職業訓練が提供されています。近くにある政府医療クリニックでは、抗レトロウイルスの薬が配布されています。そのため、ETWのケアセンターは、HIV/AIDS患者の差別がまだ残っている風土の中で、物理的・心理的な支援に集中することができます。外来では毎日、低所得者、特にHIV/AIDS患者を支援するために、無償で薬が配布されています。

アムリタ・クリパ・サーガル 癌ホスピス

ムンバイ、マハーラシュトラ州

1995年以来、このホスピスは末期ガン患者に無償介護と心の安らぎを与えてきました。ホスピスでは診療所を通して、薬、米、その他の食材を無償で貧しい人たちに渡しています。書籍も貧しい家庭の子どもたちに贈っています。



保健センター、アンダマン諸島

アムリタ保健センター

ポートブレア、アンダマン諸島

2004年のインド洋津波の後、島人たちはアンマに最新鋭の機能を備えた医療センターを建ててほしいと頼みました。センターは心臓科、小児科、一般内科について専門医による診療を実施しています。センターには完全コンピュータ化された検査室、デジタルレントゲン室、心電計、TMT超音波画像検査機、遠隔医療ユニット、救急車が備えられています。



アムリタ・アーユルヴェーダ医科大学および病院

アーユルヴェーダ学校 病院および研究所

ヴァリカウ(アムリタプリ近郊) ケーララ州

アーユルヴェーダ学校は、インドの伝統医学の遺産を復興させるために設立されました。学校は最新の設備を備えたベッド160床の病院を運営しています。レントゲン室、心電計、超音波、集中治療室、手術室、完全装備の病理検査室も置かれています。救命救急室、分娩室、また、400種類の自然および対症療法の薬品を扱う薬局もあります。病院は伝統的なパンチャカルマ(古代から受け継がれている浄化トリートメント)を入院、外来患者に用意しています。



アーユルヴェーダで利用されるハーブの苗



伝統的なアーユルヴェーダの製薬

アーユルヴェーダ病院の5エーカーの広さのハーブガーデンでは、750種類以上のハーブを育てています。さらに、伝統的な方法で薬をつくる製薬工場、アムリタ・ライフも備えています。アンマのアシュラム、アムリタプリのクリニックでも、パンチャカルマのトリートメントを受けることができます。



飢えとの戦い



遠隔地に米、ミルク、その他必要な食料を配給し、
インド全域で毎年1,000万人以上の食を援助

北米47都市7万5千人以上を含む、
ホームレスと空腹の人1万人以上に炊き出し

アンナ・ダーナム

食の贈り物

インド人大多数の所得が日収80ルピー以下で、米一キロの価格が20～80ルピーであれば、インド人口の半数近くが栄養失調で苦しむのも当然です。アンマのアシュラム本部であるアムリタプリ、そして各支部を通して、エンブレッシング・ザ・ワールド(ETW)は毎年、インド全土の200万人以上に炊き出しを行っています。

センターは人びとを客として迎え入れ、温かい食事を給仕します。このような形でボランティア達も、お腹をすかせた人たちと彼らが困っていることを理解するのです。ムンバイ・アシュラムでは、15年間このような活動を続けています。

2004年のインド洋津波後の6ヶ月間は、ETWは600万食以上、さらに185トンの米を配給して、生存者の需要に対応してきました。

炊き出しと平行して、ETWセンターは数人の専門医を待機させた無料医療キャンプを開いて無償で薬を渡しています。

また遠隔地の人々への長期的な支援として、ETWのセンターは米、ミルク、衣服の配布を行っています。



温かい食事の炊き出し、バーラカード・アシュラム、ケーララ州



徒歩のみで行くことのできる山間部等のへき地で暮らす人々へ、定期的な主食の配布



定期的に食事を受け取る路上生活の子どもたち、ムンバイ



マザーズ・キッチン

アメリカでは、8人に1人(3,500万人以上)が、収入あるいは資産の不足により、安定した形で食を得ることができません。25~75才のアメリカ人の60パーセントが、最低一年間は貧困と呼ばれるレベルに入ります。

ETWは時と場所に関わらず、可能な限り改善を生み出すことに心力を注いでいます。マザーズ・キッチンと名づけられたプログラムを通して、ボランティアは北米47都市のホームレスに年間7万3千食を配っています。マザーズ・キッチンのボランティアは他の社会奉仕団体(無料の食堂、女性保護施設、老人ホーム、グループホームなど)の調理場を使用しながら、彼らの炊き出しをまかさないです。

ボランティアは、定期的に仕入れ、調理、食事の配給などを請負い、外部団体の常勤スタッフが大いに必要とする支援を行っています。このようにしてETWのボランティアは、空腹の人と、空腹の人に奉仕する人の両方に奉仕しています。このプロジェクトはボランティア団体間、ボランティアそして食事を受け取る人たちの間に息の長い関係を作りあげています。マザーズ・キッチンは活動をはじめてから10年を数えています。

スペインではアンマのセンターが、野菜、果物、パン、ミルク、ヨーグルトなどの主要な食料品の寄付を集め、食に困っている200以上の世帯に配っています。総計すると、私たちのボランティアは、世界中で年間10万食以上を、ホームレスや空腹の人々に配っています。



この10年間、ETWボランティアは北米中の都市で空腹の人、そしてホームレスの人に奉仕してきました。2009年には、スペインのアンマのセンターが、200以上の世帯に、定期的に寄付された主要な食料品を配るという活動を始めました。



環境保護

パーマカルチャー、環境にやさしい建築、リサイクル・プロジェクトなどを通じて
世界各地のアンマのセンターに、持続可能な生活コミュニティのモデルを創る

国連「一億本の木」参画団体

世界各地での保全活動に、地元住民へ参加を呼びかけ

2001年以来、100万本以上の植樹



「地球憲章」に署名するアンマ(2009年)

地球憲章

2009年、ニューヨークでアンマは「地球憲章(平和で持続可能な世界をつくるための基本的な原理をうたった宣言)」に署名を行いました。憲章の草稿は有名な社会活動家スティーブン・C.ロックフェラー氏によってまとめられ、アンマの署名も同氏の立会いのもとで進められました。



アンマは人生を通して、環境問題に深い関心を寄せ、懸念を抱いてきました。資源の保護、再緑化への努力、生活習慣の改善など、壊れかけている自然のバランスを取り戻すために、アンマは絶えず具体的な行動を呼びかけています。

グリーンフレンズ



エンブレッシング・ザ・ワールドの環境部門、グリーンフレンズは、自然を敬うライフスタイルを培う国際的な運動へと急速に成長しています。グリーンフレンズは、人類は自然の一部なのだという意識を再び取り戻し、自然への愛と畏敬の念を育てることを呼びかけています。世界中でアンマのメインセンターが、環境の取り組みに関する実験的で教育的な場へと変わりつつあります。実際の例を通じて、持続可能な環境にやさしい共同体の理念を啓発しています。持続可能な生活理念の推進をすべての各アムリタ機関で奨励しながら、アンマとボランティアはよりよい世界という種をまいています。

グリーンフレンズはまた、持続可能な生活に関わる分野で、非公式的教育モデル開発を積極的にすすめています。プロジェクトやイベントのいくつかは、「国連の持続可能な開発のための教育の10年」の公式行事としてユネスコに認められました。しっかりと組んだプロジェクトを通して、参加者はパーマカルチャー、植樹、有機栽培、野生動物保護区の復興維持などの分野で知識や技術を深めます。自然環境でのリトリートやグループ瞑想も実施しています。ボランティアはまた、環境にやさしい住居を建て、殺菌剤としてのEM(有効微生物群)の使用、各種リサイクル、大地と水の保護などをすすめています。国連「一億の木(Billion Tree Campaign)」の参画団体として、2001年以降、100万本以上の樹を世界中に植えてきました。

ケース・スタディ

ETWは、インドのケーララ州に三ヶ所の薬草園を維持しています。沿岸部、内陸部、森林部の生態系の保護と、地元の女性たちの雇用確保を意図しています。アムリタ大学コインバトール・キャンパスでは環境研究センターを設けており、環境保護に役立つ技術の研究を行っています。有機菜園を維持するほか、有用微生物群を使用して、大学の廃水を再利用しています。

フランスでは、「欧州委員会教育・文化総局」の協賛のもと、アンマのボランティアたちが、人も入れるミツバチの家を環境教育の目的で建設しました。

(www.greenfriends-france.org)

ヨーロッパ各地で、グリーンフレンズは有機農法を行い、地場の、古来種や絶滅に瀕した種を守るシードバンクを推進しています。

アメリカ、ミシガン州では、80エーカーの敷地を再緑化するため、4万本の松の木を植える「木のスポンサーシップ・プログラム」が始まりました。

プラスチックプロジェクト

シンプルな道具と伝統的な編み物の技法を利用して、梱包などに使われたビニール袋やひもを再利用するプロジェクトです。ビニール袋をひも状にし、やわらかい素材はかぎ針などで、硬い素材は手で編みこんで製作します。バッグ、財布、サンダル、帽子、携帯電話の収納袋など、捨てられたビニールが様々な製品に生まれ変わります。プラスチック・プロジェクトは現在、インド、アメリカ、日本、ヨーロッパで活動をつづけています。インドでは世界中から集まったボランティアたちが、通常では再利用がむずかしい固いプラスチック素材で、災害生存者に向けた折りたたみ式ベッドのスプリング部分を編んでいます。



環境にやさしい排水処理、アムリタ大学



体験学習のできる「ミツバチの家」、フランス



シード・バンク(種の貯蔵所)に集められた種、フランス

災害の生存者用の簡易ベッドを作るためのリサイクル・プラスチック





アマリタ各機関

アマリタ大学、インドで最も急成長する大学の一つ。
衛星ネットワークでつながれた5キャンパスに16校
一流大学30校以上とパートナーシップ

インド全域に47校の小学校
アマリタプリ・アシュラム(インド)、インドおよび世界各地の支部



アムリタ大学コインバトール・キャンパス

アムリタ・ヴィシュワ・ヴィディヤपीタム アムリタ大学

アムリタ・ヴィシュワ・ヴィディヤピータム(アムリタ大学)は、マーター・アムリターナンダマイー・マートによる創立、運営で、インドで最も急速に成長する高等教育機関の一つです。本部はコインバトールにあり、アムリタプリ、コーチン、バンガロール、マイソールの各地にキャンパスがあります。アンマが総長を務めています。(www.amrita.edu)

工学、ビジネス、医学、歯科学、薬学、看護学、ジャーナリズム、生物工学、IT、応用人文科学科、厚生科学、教育、微生物学、病院経営学、通信、福祉事業、ビジュアルメディア、アーユルヴェーダの分野で150以上の学士課程、修士課程、そして博士課程が提供されています。アムリタ大学は、国家査定および認定評議会(National Assessment and Accreditation Council=NAAC)から最高ランクである“A”の認定を受けています。

アムリタ大学は、1994年にタミルナードゥ州のエッティマダイという小さな村で、工科大学として発足しました。当時は120人の学生と13人の教職員しかいませんでした。現在、大学は1万6千人の学生と2千人の教職員がいます。博士号、医学博士の資格を持つ教職員は、300人以上にのぼります。教員1人に対し学生8人と言う割合はインド中の大学でも最高のレベルです。2003年に、アムリタ大学はインド政府から正式に大学として認定されました。新しく創立された大学の中で、最も早く認定されました。

欧米、アジア諸国との提携

カリフォルニア大学、スタンフォード大学、南カリフォルニア大学、マサチューセッツ工科大学、ニューメキシコ大学、テキサス大学、ニューヨーク州立大学バッファロー校、カーネギー・メロン大学、ミシガン大学、ニューヨーク大学、メリーランド大学、メーヨー大学、スイスEPFL大学、アムステルダムVU大学、ミュンヘン工科大学、ローマ・トレ大学、スイス連邦工科大学チューリッヒ校、東京大学などをはじめとする30校以上の一流大学が、アムリタ大学とともに、インド国内の高等教育と研究体制の整備、向上を目指す取り組みに加わりました。民間企業ではインフォシス、IBM、フィリップス、NSN、ボッシュ、ナショナル・インスツルメンツ、クアルコム、HP、ISRO、TCSなどが加わりました。アムリタ大学は、ヨーロッパの9大学とアジアの7大学との間のエラスムス・ムンダス交換プログラムに加わっています。



アムリタ大学はただの大学ではありません。... 技術開発、研究、
そして大変具体的な問題への対応に焦点を当てた、
非常に質の高い世界トップクラスの大学です。
—ムハマド・ユヌス教授、2006年ノーベル平和賞受賞

アムリタ大学の各キャンパスおよび学校

アムリタプリ: 応用人文科学科学校	amrita.edu/asas
工学科学校	engineering.amrita.edu
アーユルヴェーダ学校	ayurveda.amrita.edu
バイオテクノロジー学校	biotech.amrita.edu
ビジネス学校	amrita.edu/asb
ソーシャルワーク学部	amrita.edu/msw
アムリタ・リサーチ	amrita.edu/research
バンガロール: 工学科学校	engineering.amrita.edu
ビジネス学校	amrita.edu/asb
コインバートル: 工学科学校	engineering.amrita.edu
ビジネス学校	amrita.edu/asb
コミュニケーション学校	amrita.edu/ascom
ソーシャルワーク学部	amrita.edu/msw
アムリタ・リサーチ	amrita.edu/research
コーチ: 医科学校	aims.amrita.edu
歯科学校	aims.amrita.edu
看護学校	aims.amrita.edu
薬学学校	aims.amrita.edu
ビジネス学校	amrita.edu/asb
ナノサイエンスセンター	amrita.edu/acns
アムリタ・リサーチ	amrita.edu/research
マイソール: 応用人文科学科学校	amrita.edu/asas
教員養成学校	amrita.edu/ased



インド前大統領A.P.J.アブドゥル・カラム博士とふれあう
 アムリタ・ヴィディヤーラヤムの生徒たち



アムリタ・ ヴィディヤーラヤム 学校

マーター・アムリターナンダマイー・マート(MAM)は、インド全域に47校のアムリタヴィディヤーラヤムを創立しました。(www.amritavidyalayam.org) アムリタ・ヴィディヤーラヤムは、最新の学習設備を備えています。アムリタ・テクノロジーによって開発され、インド前大統領のA.P.J.アブドゥル・カラム博士の臨席を得て発表された学習ソフトウェアの「アムリタラーニング」を利用しています。フォニックス(訳注、音声と文字の規則性)をベースにしたプログラムが、子供たちの言語能力を高めます。ブロードバンド・インターネットによって、教育的であると認められるウェブサイトを調べることができます。すべてのアムリタ・ヴィディヤーラヤムが国の認定試験(訳注、大学進学資格を取る)で100パーセントの合格率を誇っています。

価値観は重要な役割を担っています。子供たちは全ての活動において、頭脳とともに心を育て、無私の精神、思いやりと他人への尊敬を実践することを促されます。

生徒は芸術、ヨーガ、瞑想、サンスクリット語のマントラのチャンティングや祈りを通じてインドの豊かな伝統文化に触れます。種々多様なスポーツ、芸術、環境保護活動に参加するための機会がたっぷりと用意されます。



アンマの生地は、今や3,000人を超える人びとにとつてのホームであり、また、国際的な巡礼地、アンマの霊性および人道的組織の本部として発展しています。

アムリタプリ アンマのアシュラム

マーター・アムリターナンドマイー・マート / MAM 国際本部
ヴァリカウ、ケーララ州

アムリタプリ・アシュラムは、アンマのインドを拠点とした霊性と人道活動の組織、マーター・アムリターナンドマイー・マート(MAM)の本部であるとともに、エンブレイシング・ザ・ワールドの国際本部です。3,000人以上が住む国際的な共同体で、インド全域そして世界中から来た出家弟子や家族たちが暮らしています。彼らはアンマの生き方に触発されて、究極の自己実現を果たし、また世界に奉仕することに人生を捧げています。ここでアンマとともに生活しながら、アンマの教えを学び、瞑想を実習し、無私の奉仕に参加します。

心の慰め、気づき、そして内なる平安を探し求める世界各地の人々にとっては、アムリタプリは巡礼地です。毎日何千もの人々がアンマの限りない愛を体験しようと、このアシュラムを訪れます。ツアーに出ていなければ、アンマは夜昼となくダルシャンに来る人たちを迎えるとともに、人道的活動に関わる弟子やボランティアに助言を与えます。ほぼ毎晩、神に捧げる歌を自らリードして歌い、また週に数回、住人と一緒に座って瞑想し、公開の質疑応答の時間を設けています。

エンブレイシング・ザ・ワールド・インターナショナルはマーター・アムリターナンドマイー・マートによって構想され、インドでの事業は、マーター・アムリターナンドマイー・マートによって構想、実施されます。アンマの弟子やボランティアはMAMの機関や支部を担当したり、インド国内や海外の公開プログラムを実施したりするために、ここから出かけていきます。

アムリタファミリー

地域のアムリタファミリーを通して、いくつもの家族が定期的に集まり神の御名を唱え、神を讃える歌を歌い瞑想し、奉仕活動を行っています。このような集まりは家族と地域の中に、さらに社会全体に平和と調和を生み出すことになります。今日インド全域の数千ヶ所と海外の数百ヶ所に、アムリタファミリーがあります。



支部センター

マーター・アムリターナンドマイー・マートは、インド全域と海外を合わせ数百の支部センターとサミティ(奉仕グループ)を置いています。多くの支部センターには寺院と学校があり、統括にあたる出家の弟子が一般向けプログラムを開き、地元の要請に応えた無私の奉仕活動を進めます。主要なセンターはアメリカ、ヨーロッパ、ブラジル、日本、シンガポール、マレーシア、オーストラリア、レユニオン諸島、モーリシャス、およびインド全域にあります。

ブラフマスターナム寺院

1989年に、アンマは異なる神々の姿の根底にある本質的な統一性を強調する寺、ブラフマスターナム寺院の建立を始めました。祈りの場所としてだけでなく、寺院礼拝の本当の原理を人びとに再び教える目的もあります。アンマはケーララ州で初めて、寺院の祭司に女性を任命しました。2011年5月現在ではインド全域に20カ所、モーリシャス諸島に1カ所のブラフマスターナム寺院があります。



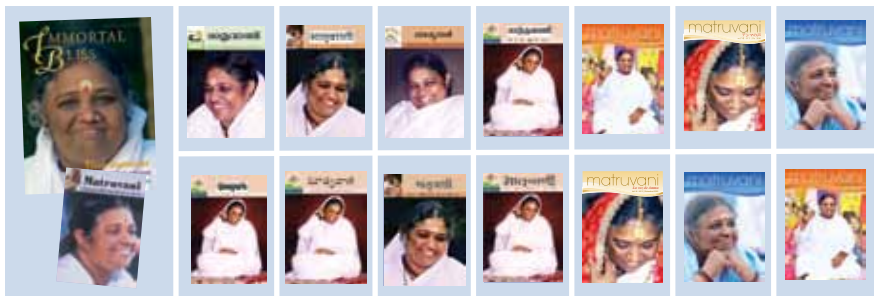
アムリタ・キールティ賞

マーター・アムリターナンドマイー・マートはインド文化を奨励し支援するために、この賞を設けました。インドの遺産に顕著な貢献をしたすぐれた人物、あるいは国家や社会の奉仕に従事した人々に授与されます。州あるいは国のレベルで決定されます。



出版物

アンマの教えや生い立ちを詳しく語る書籍が、30冊以上出版されています。また、聖典の解説、バジャン(インドの神々に捧げる歌)、詩やサンスクリット語のマントラについての本もあります。これらの書籍は25の言語に翻訳されています。



「マートルヴァーニ」と「イモータルブリス」は、アンマの教え、勇気を与える記事、そしてアンマに実人生で影響を受けた人々が綴ったさまざまな体験などを紹介しています。英、仏、独、伊、スペイン、フィンランドの各言語、および日本語で購読できます。インド版ではマラヤラム、グジャラーティ、ヒンディ、マラーティ、ベンガリ、テルグ、カンナダ、タミルの各言語がそろっています。

オーディオ・ヴィジュアル製品

アンマ自身が歌う、魂に触れる献身の歌、その他のスピリチュアルな音楽が数多くCDになっています。アンマのインドツアー、ワールドツアー、国際的なフォーラムでの彼女のスピーチ、そしてアンマの人道支援プロジェクトがDVDになっています。

日本アシュラム
〒206-0804
東京都稲城市百村1620-1
日本アシュラムビル
Phone: 042-370-4448
Fax: 042-370-4449
E-mail: info@amma.jp
Website: www.amma.jp

インド - 国際本部

Mata Amritanandamayi Math
Amritapuri P.O., Kollam District,
Kerala, 690525, India
Ph: (int+91) (0)476 289 6278, 289 5888
E-mail: inform@amritapuri.org
Website: www.amritapuri.org

アメリカ・メインセンター

MA Center, P.O. Box 613, San Ramon,
CA 94583-0613, USA
Phone: (int+1) 510 537 9417
Fax: (int+1) 510 889 8585
E-mail: macenter@amma.org
Website: www.amma.org

カナダ

Amma Foundation of Canada
9158 Trafalgar Road, Georgetown, ON
L7G 4S5
Phone: (int+1) 289 344 0840
E-mail: info@ammacanada.ca
Website: www.ammacanada.ca

オーストラリア

MA Centre Australia, 842 Dandenong
/Frankston Road, Carrum Downs,
Melbourne, Victoria, 320, Australia
Phone: (int+61) 3 9782 9927
Fax: (int+61) 3 9782 9032
E-mail: info@ammaaustralia.org.au
Website: www.ammaaustralia.org.au

シンガポール

Amriteswari Society, MA Center, No. 3,
Hindoo Rd., (off Serangoon Rd.), Singapore
Phone: (int+65) 6234 3132
E-mail: amrita@amma.org.sg
Website: www.amma.org.sg

モーリシャス

MA Center, St. Jean Rd.
Quatre Bornes, Mauritius
Phone: (int+230) 466 2718
Fax: (int+230) 454 5031
E-mail: macmru@intnet.mu

フランス

Centre Amma, Ferme du Plessis
28190 Pontgouin, France
Phone: (int+33) (0)2 37 37 44 30
E-mail: france@amma-europe.org
Website: www.amma-france.org

ドイツ

MA Center Germany, Hof Herrenberg 1,
64753 Brombachtal, Germany
Tel. (int.+49) (0) 6063 57 99 33
Fax: (int.+49) (0) 6063 57 99 53
E-mail: germany@amma-europe.org
Website: www.amma.de

スペイン

Centro Amma, Can Creixell, 08784,
Piera-Barcelona, Spain
Phone: (int.+34) (0) 931 022043
E-mail: spain@amma-europe.org
Website: www.ammachi.es

ベルギー

Amma Center, Broekstraat 6
9140 Tielrode, Belgium
Phone: (int+32) 3 771 5227
Fax: (int+32) 3 771 3034
E-mail: belgium@amma-europe.org

スイス

M.A. Center Switzerland / Seminarzentrum
Ziegelhuetten, 8416
Flaach, Switzerland
Phone: (int+41) 52 318 1300
E-mail: macenter@amma.ch
Website: www.amma.ch

レユニオン諸島

Amritananda Mayi Mata Ashram,
Le Camp du Gol St. Louis, F-97450, Reunion
Phone: (int+262) 26 74 97
Fax: (int+262) 26 74 72
E-mail: ammareunion@hotmail.com

ケニア

Amrita Centre Kenya
P.O. Box 39712
Nairobi 00623, Kenya
(int+254) 731 226 622, 717 226 622.
E-mail: info@amritakenya.com
Website: www.amritakenya.com

アンマの夢

世界中の誰もが、せめて一夜でいいから怯えずに眠れますよう。

誰もが、せめて一日だけでもお腹いっぱい食べられますよう。

暴力で入院する人が、世界中で一人もいない日が、一日だけでもありますよう。

すべての人が、せめて一日だけでも見返りのない奉仕を行い、貧しい人、困っている人を助けなければならない。

このささやかな夢だけでも実現する事が、アンマの祈りです。



embracing the world.org

学ぶ | 伝える | 参加する



サトウキビ繊維を再利用した非木材70%の紙で印刷しています。